

地方史情報 157

2022年9月

地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

北海道	1	石川県	29	島根県	52
宮城県	3	福井県	30	岡山県	54
山形県	4	山梨県	31	広島県	55
福島県	6	長野県	31	徳島県	57
茨城県	8	岐阜県	36	愛媛県	58
栃木県	9	静岡県	36	福岡県	59
群馬県	11	愛知県	37	佐賀県	61
埼玉県	11	滋賀県	38	宮崎県	62
千葉県	11	京都府	40	鹿児島県	62
東京都	14	大阪府	43	沖縄県	64
神奈川県	22	兵庫県	48	寄贈図書	64
新潟県	27	奈良県	50		
富山県	29	和歌山県	51		

北海道

◆胆振見聞録 自然に学び歴史・文化を楽しむ

「月刊ひらく 紙の街の小さな新聞」付録

一耕社出版

〒053-0803 苫小牧市矢代町3-2-14 Tel0144-75-6790 2019年創刊

◇37 2022.5 A4 4p

ふるさと懐かし写真帳 昭和30年代の街角

谷間を飾るシラネアオイ

すずさんから聞いた事(5)

(N)

一耕社出版 郷土の本の紹介 魚カスも千石場所（「第11話 魚カスも千石場所」より）「とまこまい古里こぼれ話」（文・絵 田中へ

いみ氏、発行・ふるさと文化セミナー)

◇38 2022.6 A4 4p

ふるさと懐かし写真帳 苫小牧駅の移り変わり

すずさんから聞いた事(6)終

(N)

一耕社出版 郷土の本の紹介 明治、ガス灯、繁華街(「第21話 明治、
ガス灯、繁華街」より)「とまこまい古里こぼれ話」(文・絵 田
中へいみ氏、発行・ふるさと文化セミナー)

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでる2・7ビル9階

TEL011-271-4220 <http://hokkaido-bunkazai.jp>

◇389 2022.7 A4 8p

カワスソ神の伝承

舟山 直治

(一財)北海道文化財保護協会 令和4年度会員総会 3年ぶり開催

国の文化財 コーヒー香る 北海道林木育種場旧庁舎

石垣 秀人

早春の発掘

野村 崇

シリーズ伝える 日本遺産「炭鉄港」を伝える

「三菱美唄炭鉱立杭槽」の活用

鹿糠 昌弘

まちのイチオシ 学舎に眠る資料たち一利尻町

佐藤 雅彦

創立60周年記念 第3回文化財講演会

清華亭と偕楽園—その一隅の今は

遠藤絃之助

博物館ひろば 郷土史を歴史的建物で伝える 浦河町立郷土博物館

伊藤 昭和

◆北方民族博物館だより 北海道立北方民族博物館

〒093-0042網走市潮見309-1 TEL0152-45-3888 1991年創刊

<http://hoppohm.org>

◇125 2022.6 A4 4p

ロビー展 「暖かい」だけじゃない! 毛皮と北方民族の多彩な関係

共催: 国立アイヌ民族博物館・ArCSⅡ沿岸環境課題

中田 篤

講座 毛皮と北方民族 講師: 山口未花子氏・田村将人氏・日下稜氏

中田 篤

館長講座 環境に優しい北方文化: トナカイ毛皮のリサイクル

講師: 呉人恵

呉人 恵

講座 北方民族の“威信財”をめぐって 講師: 野口泰弥

野口 泰弥

宮 城 県

◆東北民俗 東北民俗の会

〒980-8576仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科 宗教学研究室

℡022-795-6022 年4000円 1966年創刊 <http://www.tohokuminzoku.com>

◇56 2022.6 A5 138p 1000円

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 『船形山手引艸』をめぐるこころみ—西のお山と東のお山 | 小田嶋利江 |
| 「震災」と「民俗」 | 鳥居 建己 |
| 津波常習地における海難者の供養—明治三陸津波を事例として | 小野寺佑紀 |
| 黒川郡の田遊びと田植踊 | 笠原 信男 |
| 宮城県南部の蛇供養・蛇霊神などの石碑 | 石黒伸一郎 |
| 金華山信仰についての報告 | 田村 優衣 |
| 祭を「ミせる場」「スる場」としての「どんと祭」会場の構築過程 | |
| —宮城県仙台市の事例から | 高橋 嘉代 |
| 岩手県一関市大東町の大原水かけ祭り一位相と展開 | 東 資子 |
| 大迫町亀ヶ森地区における大償神楽の伝播と伝承経路について | 中嶋奈津子 |
| 岩手県南・宮城県北のハリストス正教会 | |
| —「顕栄会」の生成過程とその周辺を整理する | 及川 宏幸 |
| ナダとオキの生態民俗—福島県新地町の固定式刺網漁から | 川島 秀一 |
| 青森県におけるシロウオ漁の概要 | 太田原 潤 |
| 杉森健一の「中奥の民間信仰」受容と“理論”への着眼 | |
| —国立民族学博物館所蔵ノートの翻刻を通じて | 會澤 健裕 |
| 菅江真澄と雪の民具—「しんべ」と「しそ」の再考 | 稲 雄次 |
| 2020年度東北民俗の会 年次報告 | |

◆歴史 東北史学会

〒980-0862仙台市青葉区川内 東北大学大学院文学研究科 日本史研究室

℡022-217-6064 年4000円 1949年創刊

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nihonshi/t-shigakukai/>

◇138 2022.4 A5 141p 2100円

- | | |
|------------------------------|-------|
| 明代前中期の朝覲考察の変遷について | |
| —地方官への人事評価を中心として | 陳 穎 |
| 南部信直書状と蔵入地代官 | 熊谷 隆次 |
| 三島通庸における“伝統”と“革新”—山形県政と儒教の関係 | 小幡 圭祐 |
| 百田宗治における「童心」と「童心主義」批判 | 菅野 葉月 |
| 松島タワー建設問題と特別名勝の管理 | 手嶋 泰伸 |

書 評

大平聡著『日本古代の王権と国家』 鈴木 琢郎

岡安儀之著『「公論」の創世 「国民」の誕生―福地源一郎と昭和ジャーナリズム』 小嶋 翔

講 演

イギリスの帝国支配とインド鉄道 渡辺 昭一

大航海時代とアジア・日本 平川 新

山 形 県

◆聴 雪 新庄古文書の会

〒996-0078新庄市新町10-4 大津純一方 TEL0233-22-6307 1997年創刊

◇26 2022.6 B5 85p

巻頭言 お薬師様に憶う 新國 吉朗

学習会 第1部 申之御用書留帳―近岡家文書

講師：新國吉朗／解説：大津純一・武田晴美・梁瀬平吉・阿部修一
・大友寿美代・杳澤正昭

解 説 新國 吉朗

入力：解説文・解説文(新國吉朗) 新國 吉朗

学習会 第2部 輪読

輪読テキスト原文の引用について 大場 英一

「井関家文書」

1 畑渡証文之事 阿部 修一

2 借用申金子之事 阿部 修一

3 無題〔文金拾両借用手形〕 阿部 修一

4 無題〔戊辰戦争後の家来登京差止取消之願〕 梁瀬 平吉

「広野家文書」

1 無題〔郷人三五郎雇請証文〕 杳沢 正昭

2 請証文之事(名子出入請証文) 杳沢 正昭

「金田家文書」

1 覚(七所明神社領替地証文・円満寺前) 大津 純一

2 覚(七所明神社領替地証文・長助前) 大津 純一

行旅死人口書写

3 送状(御仕置送被下度候) 武田 晴美

4 送状之事(御継立可被成候) 武田 晴美

5 乍恐口上を以御届奉申上候(村送相成候者死去) 武田 晴美

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------|
| 6 | 乍恐口上を以御届奉申上候(不及手甲斐死去) | 武田 晴美 |
| 7 | 乍恐口書奉申上候御事(死去ニ不御改) | 梁瀬 平吉 |
| 8 | 乍恐口書奉申上候御事(死骸仮埋) | |
| | 付 鳥越村池田新作の肩書を探ったが | 大場 英一 |
| 9 | 無題〔死骸見分〕 | 沓沢 正昭 |
| 安政五年公事船改一円諸文通写 | | |
| 10 | 口上書覚(勝手之改方無之様) | 武田 晴美 |
| 11 | 右写江添書 | 武田 晴美 |
| 「荒川家文書」 | | |
| 1 | 此以降御判所留物之覚 | 阿部 修一 |
| 2 | 覚(人馬・駕籠などの御定賃銭) | 阿部 修一 |
| 3 | 覚(領民他出の出判改方についての達) | 阿部 修一 |
| 「瑞雲院文書」 御布令書写(神仏混淆禁止) | | 大津 純一 |
| 入力：解説文・解説文(各担当者) | | |
| 明治維新期の鳥越村庄屋に関する疑問について | | 大場 英一 |
| 古文書とデジタル | | 岸 啓二 |
| 退任役員の足跡抄(令和4年3月末現在) | | 大場英一／大津純一 |
| 新庄古文書の会「会務報告」 | | |

◆村山民俗 村山民俗学会

〒990-0055山形市相生町2-10 岩鼻通明方 TEL023-623-5687 年3000円

1988年創刊 <https://blog.goo.ne.jp/murayamaminzoku/>

◇36 2022.7 B5 44p

京都から伊勢までの民俗誌一半沢氏「旅日記」中巻から(その2) 野口 一雄
「東北の大黒信仰儀礼の基礎的研究」補遺

一菅江真澄『粉本稿』および「つがろのつと」より 菊地 和博
北村山のアイヌ語地名 清野 春樹
流浪の六部喜平治の行跡 市村 幸夫
絵師・狩野永耕藤原応信の真相

一古文書と作品群からわかる六田の青山永耕との相違点 野口 孝雄
戸川安章先生の講演原稿再録～羽黒山の修験者とその妻 岩鼻 通明
会の歩み一二〇二一年度

◆山形史学研究 山形史学研究会

〒990-0021山形市小白川町1-4-12 山形大学地域教育文化学部 歴史学研究室

内 TEL028-628-4391 <https://ymgt-shi.jimdofree.com>

◇50 2022.8 A5 124p

《創刊50号記念号》

巻頭言 創刊五〇号の重みを今ここに

会長 大喜直彦

伊達氏の中山要害はどこかー中山城跡と岩部山館跡の調査から

保角 里志

永正・大永年間、大江寒河江氏と山形氏、伊達の動向

大宮 富善

最上氏の内訌と公権力の形成

一天正二年最上の乱に見る「洞」と「一味」を素材に

齋藤 仁

近世中期における紅花荷主の経営構造と上方取引(一)

一出羽国村山郡山形城下町近郊の會田家を事例として

森谷 圓人

消えた近江商人の手紙よりーお客様は仏様です

大喜 直彦

山形県サクランボ史事始め

小幡 圭祐

遊佐漁業家青山家の経営ー酒田商人との関係

小野寺雅昭

天童愛宕神社幣殿障壁画のうち「松鷹図」について

佐藤 琴

2021年度 山形史学研究会大会報告

福島県

◆郡山地方史研究 郡山地方史研究会

〒963-8876郡山市麓山1-8-3 郡山市歴史資料館内 TEL024-932-5306

1965年創刊

◇52 2022.3 A5 117p

原始・古代の自然災害ー遺跡・文献にみるそれへの対応

柳沼 賢治

郡山市富久山町福原「中田館跡」から考える豪族居館・有力古墳と地

域

垣内 和孝

伊達氏天文の乱の結末

高橋 明

群峯吟社の俳人たち(2)・郡山俳壇史(5) 久米正雄と俳句の師西村岸

太郎と田邊彦彌ー十四歳で群峯吟社の句会で三汀の俳号で句を詠む

庄司 一幸

種痘の先駆者・小此木間雅の碑 原文と訓読

安藤 智重

近・現代の熱海町を地図と碑石や記録等で辿る

ー町内に残る石碑と安積疏水を巡る著名人の記録

齋藤 誠一

令和3年度郡山市文化功労賞授与報告

大河峯夫氏に市文化功労賞授与

◆フークトープ通信 フークトープ通信社

〒960-8021福島市霞町9-38 シュタースティエ102室 山田英明方

2015年創刊

◇50 2022.8 A4 2p

自治体史編纂のゆくえ

山田 英明

フークトープ紀行(50) 飯坂電車(福島市)

荒川 瑛楠

◆福島県史料情報 福島県文化振興事業団

〒960-8018福島市松木町13-16 TEL024-534-9193 2002年創刊

<https://www.fcp.or.jp/history/>

◇63 2022.6 A4 4p

『福島県写真帖』に掲載された三春滝桜

葉桜の三春滝桜（『福島県写真帖』、福島県歴史資料館蔵）

渡邊 智裕

相撲行司 木村庄之助の手紙

山田 英明

陸奥国伊達郡に伝播した私年号「永長」

小野孝太郎

霊力と災厄一神の崇りが齎す疫病

小野孝太郎

戯れ歌の秘密

山田 英明

首里城を修復した阪谷良之進と柳田菊造

渡邊 智裕

◆ふくしまの歴史と文化財 文字摺通信

〒960-8204福島市岡部字東町35-6 守谷早苗

◇19 2022.7 A4 4p

藩の名前についての若干の考察

何故に会津藩？何故に磐城平藩？何故に長沼藩？

◇20 2022.7 A4 4p

古関裕而を讃えるとともに「火の鳥の会」の調査を

7年に一度の善光寺御開帳 福島にも善光寺式阿弥陀三尊石仏が／牛

にひかれて善光寺参り

もう一軀、阿保原地蔵尊を見つけました。

◇21 2022.8 A4 4p

第一小学校資料(1) 子守り児童のための画期的な学校がありました

／貴重な保嬰学校写真がありました

信達歴史文化研究会文化財探訪～東屋沼神社を訪れてきました

松ぼっくり大蛇額と不思議なお面

◇22 2022.8 A4 4p

本宮南町本陣の御鷹部屋について 献上鷹のこと

信達歴史文化研究会 東屋沼神社資料整理事業を開始しました

広告のページ 守谷早苗著『福島雑学〔I〕 隠れていた信夫野、物

語の集大成』)

◇23 2022.9 A4 4p

特集 火の鳥の会 竹内至関係資料

「福島音楽四十年史」(3) 竹内至(「福島ろうおん」1959年12月号)

再び「磐城」のこと 地域・地方としての「磐城」とは

茨 城 県

◆茨城史林 茨城地方史研究会(発売:筑波書林)

〒310-0053水戸市末広町1-5-39 久信田喜一方 TEL029-222-1228

年3000円 1972年創刊

◇46 2022.6 A5 177p 1182円

巻頭言 地方史研究協議会茨城大会の開催と今後

久信田喜一

『常陸国風土記』からみた古代の茨城(1)

久信田喜一

常陸国千妙寺と下野国宗光寺の本末争いによせて

一法流の關係に注目して

内山 純子

「信用組合のもと下館信友講」という言説

高増 慧

「足尾神社祠官大沢順軒」を追って

田渕 正和

茨城県南・県西の正月行事「オビシヤ」一年の初めのトウヤ引継の祭

近江 礼子

徳川光圀と遣迎院応空 補遺

鈴木 暎一

史料紹介

常陸二の宮静神社と祝詞(2)一静神社の祝詞を中心として

栗原 亮

史料に見る水戸藩北海道開拓一大宮村御用留や小瀬家関連文書等より

内田 正人

新刊紹介 茨城新聞社編『茨城近代化の父 飯村丈三郎の生涯』

富田 任

史料調査班調査報告 常陸太田市大須賀家文書・関一氏収集反射炉関

係資料・興野道甫関係文書・常陸太田市立立川家文書・鉾田市浅野

家文書の調査

久信田喜一

令和三年度 活動概況報告

◆下妻の文化 下妻市文化団体連絡協議会

〒304-0056下妻市長塚乙77 TEL0296-43-3418 1976年創刊

◇47 2022.5 A5 113p

表紙の写真 下妻市指定文化財 建造物「石造 五輪塔」

「下妻の文化」第四十七号発刊にあたって

國府田 晋

心を育む

菊池 博

コロナ禍を越えて	廣瀬 栄
祝 辞	飯塚 秋男
未来からの使者である子供たちの育成に向けて	横瀬 晴夫
情けは人のためならず	山中 孝男
不易と流行	渡邊 剛
金村別雷神社を訪ねて 埋もれた有形文化財	外山 崇行
雪の東北 老友との二人旅	大塚 武彦
下妻の地酒「紫煌」	柳 操
多賀谷家重所有の短刀について	佐久間秀樹
古代の道「東山道」に思う	植木 正明
川と自然	吉原 好男
綜大君の葵祭と甲子園	飯田みつ江
刀剣鑑賞の楽しみ 直胤と胤光	中島 成行
長塚節と松川煎餅	塚越 節
いつかロボットと！	國府田 晋

◆長塚節の文学 長塚節研究会

〒300-2707常総市本石下4639 TEL0297-42-2003 年3000円 1994年創刊

◇27 2022.6 A5 53p 1000円

口絵 大正二年十月二十五日(道後温泉絵葉書) 長塚家所蔵

長塚節の文学(短歌)の基礎的研究—斎藤茂吉を手がかりにして

茅葺き屋根の生家(2)

古泉千樫による長塚節敬慕

鬼願・祈願碑

研究論文 音楽にしてみたい長塚節の短歌

つくば市における「長塚節講座」開催報告

『土』とあわせ読む文学(3) プーシキン『大尉の娘』(1836)

The Soil Nagatsuka Takashi an introduction by Ann Waswo と山形

洋一の The World of Takashi Nagatsuka's "The Soil(1910)" Summary

mary を読んで考える

長塚節の入学した小学校について

桐原 光明

黒田 次郎

山形 洋一

鳥井 憲一

岩渕 憲弥

松崎 若美

山形 洋一

飯島 雅行

河合 宏

栃 木 県

◆史 談 安蘇史談会

〒327-0004佐野市赤坂町229 大高八三郎方 TEL0283-24-3232

年2000円 1985年創刊

◇38 2022.5 A4 199p

口絵写真 説明 黒崎文庫所収『慶応記事』巻一、慶応三年出流山事件
件 栃木町の様子(新里村での戦いなど) 栃木県立図書館蔵

巻頭言 明治維新一五〇年を考える

海老原脩治

史料に読む幕末・下野国 出流山事件(3)一足利藩栃木陣屋や新里村等

での戦い及び西山謙之助(尚義)・赤尾清三郎(思敬)のことなど

海老原脩治

鐙塚町の星宮神社と摂社・末社

大川 圭吾

史料紹介 森鷗村発行の『文明新誌』その五(補)『文明新誌』に学

んだ人々 青年、須永元・輓斎も参加 須永の師彦根藩家老岡本黄

石の名も

廣木 雅子

近世野州石灰の生産と流通

山本 訓志

足利市稲岡町観音堂の石造地藏菩薩立像

齋藤 弘

出羽三山を詠んだ芭蕉の足跡を辿る

青山 守

唐沢山城の石垣を再考する

茂木 孝行

下野唐沢山城と佐野氏一文明～永正期の本拠をめぐって

江田 郁夫

史料紹介 鎌倉時代中期の佐野氏について

鴨志田智啓

水損資(史)料(軍事関係史料)の目録作成作業に協力

安蘇史談会

別格官幣社唐澤山神社 第二代東明會総裁 海軍少佐伯爵佐野常羽

遣外艦隊参謀兼副官として米欧諸国沿岸を巡航一訪問一する

大高八三郎

講座「第三七回安蘇の風土と歴史」の開催状況

安蘇史談会

表紙解説 佐野市鐙塚町の星宮神社拝殿

◆歴文だより 栃木県歴史文化研究会会報

〒320-0865宇都宮市睦町2-2 栃木県立博物館内 TEL028-634-1313

年4000円 1991年創刊

◇124 2022.7 A4 4p

《特集 ふるさと栃木再発見》

ふるさと栃木再発見

重藤 智彬

SDGs 課題解決の一助として～身近な民俗文化の見直し

柏村 祐司

『栃木の流行り病 伝染病 感染症』を編集してみた

大嶽 浩良

新出・足尾地域の中世資料について

千田 孝明

皆川広照と天下人

江田 郁夫

デジタルコンテンツ紹介(1)

那須烏山市デジタル博物館

常盤 祐哉

那須町立図書館「那須町デジタルアーカイブ」

作間 亮哉

群馬県

◆群馬歴史散歩 群馬歴史散歩の会

〒379-2154前橋市天川大島町317-1 Tel027-223-2785

年4500円 1973年創刊 <http://www16.plala.or.jp/kuzira226/>

◇271 2022.7 A5 57p

口絵 東京の伊香保温泉(位置図)

井野 修二

広瀬川低地帯はどう形成された—沼田湖決壊

倉島 繁治

温泉と効能—明治二十一年の温泉に人々は何を求めたのか

井野 修二

幸徳秋水から聞いた話—新村忠雄の実兄宛書簡 翻刻

石山 幸弘

明治天皇前橋行在所・臨江閣

井野 誠一

大沼越後の墓と家紋

松田 猛

群馬県知事 神山閏次の書

井野 修二

越後のミケランジェロ 石川雲蝶作品の寺々

—魚沼のカタクリ群生地と八海醸造

山崎 正

表紙写真 東京の伊香保温泉『日本之名勝』(国立国会図書館蔵)

埼玉県

◆埼玉地方史 埼玉県地方史研究会

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂11-1 さいたま市市民活動サポートセンター メールボックスB13 年3000円 1975年創刊

<https://saitama-chihoshi1952.blogspot.com>

◇85 2022.6 A5 62p

武蔵国御家人・在京人庄氏の鎌倉幕府成立期における軍事的・政治的

活動—児玉党系庄氏の瀬戸内地方への西遷の前提条件を探る

雫岡 恵一

養負騒動の記憶とその受容—一九〇七—一九三七

内田 満

御家人毛呂季綱所領「武蔵国泉・勝田」について

齊藤喜久江

コラム 地方史のひろば 高麗郡と狛江郷

森田 悌

動向 「鎌倉街道上道」(毛呂山町)の国史跡指定／所沢市文化財保護

課 閲覧学習室の開室時間の変更

千葉県

◆我孫子市史研究センター会報

〒270-1152我孫子市寿1-3-12 荒井方 Tel04-7182-2838

<http://abikosisiken.main.jp>

◇241 (通548) 2022.7 A4 26p

青山台フェニックスC講演会 東 日出夫

2022年度(令和4) 定例総会議事録

歴史部会 5月の活動報告 我孫子市における「多様性ある地域博物館」とそれを支える「エコミュージアム」 宗岡 恒雄

我孫子市史を読む会 6月度活動報告 萩原 正美

古代史研究会 6月度活動報告

利根川東遷事業と常総水系の改修について 報告者：星野征朗

井上家文書研究会 6月の活動報告

(新)No.976 表紙欠(御用留・寛政3亥正月～8辰正月) 岡本 和男

古文書解読日曜部会 6月度活動報告

「牛久騒動女化日記」(故高島眞一氏所蔵文書) 阪本 功

古文書火曜部会 6月度活動報告

「組合村々被仰渡御請証文并村々議定書写」(小熊家文書) 加藤 直道

文政10年「組合村々…議定書写」を読み終えて 金成 典知

我孫子の社寺を訪ねる(46) 都地区の社寺(1)

網代場観音堂(我孫子市都10番地(字網代場[あじろば])) 近江 礼子

◇242 (通549) 2022.08 A4 20p

市役所に星野市長を訪ねました 郷土資料センター推進会 文責・東日出夫

歴史探訪部会 7月の活動報告 座学(講演会)「我孫子市内の歴史

遺産を巡る一その2」古墳を主としJ R北柏駅からJ R我孫子駅ま

でと関連する柏市の古墳 中嶋正義会員 長谷川秀也

「我孫子市内の歴史遺産を巡る一その2」座学の要旨 中嶋 正義

我孫子市史を読む会 7月度活動報告 萩原 正美

井上家文書研究会 7月の活動報告

表紙欠(御用留・寛政3亥正月～8辰正月) 岡本 和男

古文書解読日曜部会 7月の活動報告

「牛久騒動女化日記」(故高島眞一氏所蔵文書) 白神 正光

歴史部会 6月の研究講座

「我孫子宿と助郷」―街道・宿場・助郷をめぐって 茂木 勝己

手賀沼水運・戸張河岸について 谷村 廣子

8世紀後半の利根川と東海道と我孫子 星野 征朗

◆千葉史学 千葉歴史学会

〒263-0022千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学文学部内 TEL043-251-1111

年4000円 1982年創刊 <http://chibareki.blog.fc2.com>

◇80 2022.5 A5 108p

巻頭随想 映画「骨までしゃぶる」をご存知ですか？

横山百合子

歴史随想

堀田家文書「年寄部屋日記」に取り組んで

菅原 憲二

「文教地区西千葉」の戦中戦後または歴史の証言者としての「木造

校舎」遺構―「東京帝国大学第二工学部」から「千葉大学」「生産

技術研究所附属千葉実験場」へ

天野 良介

仙石和道君と大熊信行のこと

長谷川亮一

旭市岩井安町遺跡にみる弥生時代の鍛冶遺構

杉山 和徳

房総地域における施釉陶器出土遺跡の特質

立原 遼平

近世後期館山湾における漁業争論と領主支配

―安政期出し網一件を事例として

宮坂 新

史料紹介 船橋市西図書館所蔵「千葉縣處務細則 附部長課長委任条

件」について―完結文書に関する規定に着目して

柏原 洋太

新刊紹介

佐原文書学習会『近世佐原伊能家の記録「伝家〔 〕」―忠敬前後

の家と地域の諸相』

菅原 憲二

印西市史編さん委員会編『印西市史 資料編 近現代1』

土屋 雅人

例会報告

古代史部会 2021年11月例会 石渡芳樹「「牧」記載墨書土器から

みた古代牧関連遺構の考察―古代房総の牧と近世房総の牧との接

点について」、服部一隆「近年の厩牧令研究について」／2021年12

月例会 浅野健太「上総国の平安時代馬具の流通と牧」

文責・石渡芳樹

中世史部会 2022年3月例会

外山信司「戦国期下総の牧について」

文責・江澤一樹

近世史部会

2021年7月例会 テーマ：博物館展示とジェンダー・パークスベ

クティブ 木下はるか「博物館展示とジェンダー・パースペク

ティブ―国立歴史民俗博物館企画展示「性差(ジェンダー)の日

本史」図録の書評を通して」

文責・小田真裕

2021年8月例会 大会報告（猪岡萌菜「祐天の成田不動利生譚に

見る近世の高僧イメージ」）批判

木場貴俊「猪岡萌菜報告に接して」

文責・木場貴俊

討論要旨

文責・小田真裕

2022年2月例会 テーマ：「房総の牧」をめぐる自治体・学会・博

物館等の動向と今後の研究展望
 第2回部会合同例会(近世史部会企画) テーマ:絵図から考える
 「房総の牧」―二〇二二年度以降を見据えて
 近現代史部会 2022年2月例会
 上田 浄 「馬匹改良」と源村」(大会準備報告)

文責・小田真裕

文責・小田真裕

東京都

◆あしなか 山村民俗の会

〒330-0854さいたま市大宮区桜木町4-201-2 塩野谷明夫方 TEL048-465-7818
 年5000円 1939年創刊

◇324 2022.6 B5 22p

表紙解説 利根川下流「香取鳥居 磯辺図」(『木曾路名所図会』所収)

編集室

利根川下流 大杉囃子・あんば囃子と大杉神社

一境町・小山市島田・思川沿い・塩谷町・稲敷市ほか

井上 義雄

丹波美山の山里歳時記―春から冬へ

西浦 左門

南方熊楠と柳田国男の接点―『東京人類学会雑誌』の柴田常恵

関 啓司

旅の草ぐさ(33)

朝日山燈明台と長谷観音―網代東岸周辺を歩く(1)

山立 虎魚

◆明日を拓く 東日本部落解放研究所

〒111-0024台東区今戸2-8-5 TEL03-5603-1863 1993年創刊
<http://www.hblri.org>

◇133 (48-3 通216) 2022.7 A5 130p 1000円

《特集 二〇二一年度定例研究会の記録から》

特集にあたって

編集部

特集1 「全国部落調査」復刻出版事件の判決をどう受け止めるか

2021年度第4回定例研究会の記録

「全国部落調査」復刻出版事件判決の問題点と今後の課題

片岡 明幸

質疑と意見交換

特集2 部落の「属性」の否定という共通点は何を意味するのか

―ラムザイヤー・鳥取ループ・法務省 2021年度第3回定例会の
 記録

部落「属性」の否定という共通点は何を意味するのか

吉田 勉

質疑と意見交換

連載 ヒューマンライツ再入門(4)

差別被害者救済のために一人種差別禁止法を作ろう 前田 朗
書評 朝治武・谷本昭信・寺本伸明・友永健三編著『続部落解放論の
最前線 水平社一〇〇年をふまえた新たな展望』 鳥山 洋

◆足立史談 足立区教育委員会足立史談編集局

〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393

◇653 2022.7 A4 4p

建部巢兆画賛と句集『曾波可理』—『瓢箪図自画賛』再考も加えて 加藤ゆずか
東京煉瓦株式会社の所在地について 佐藤 貴浩
あだち民具図典(14) 箕(下) 萩原ちとせ

◇654 2022.8 A4 4p

新収蔵資料紹介 内藤裕氏の「釉象嵌」陶芸 小林優／加藤ゆずか
放水路開削のため引越—土もトロッコで引越 山崎 尚之
明治三陸地震津波の褒賞状 佐藤 貴浩
ここで見られる足立の文化財

◆足立史談会だより

〒120-0001足立区大谷田5-20-1 足立区郷土博物館内 TEL03-3620-9393

◇412 2022.7 A4 8p

足立区立郷土博物館主催協働展 何を訴えるか!「足立の学童疎開展」
区民研究発表会 区民研究発表者決まる
博物館協働展「足立の学童疎開展」開催構想
第二九期史談大学開校なる (唐沢)
足立の学童集団疎開展 足立の学童集団疎開は50周年の節目から
太平洋戦争と学童疎開 事務局
足立の学童疎開を語る会 私の学童集団疎開は空襲の惨劇を目にして
木嶋孝行会長の目撃
四月一三日の空襲 宮本 昇
足立の学童疎開を語る会 児童の疎開全国で40万人計画
足立の学童集団疎開を考える
小国民への戦前教育／軍国主義への道を歩む戦中教育
出前授業での児童の感想
◇413 2022.8 A4 4p
戦争の無残さと学童疎開の苦難を風化させてはいけない
民主主義を見直そう 戦後の新教育指針(文部省資料昭和21.5.1) (24)

編・堀川和夫

令和4年度夏季区民教養講座 森鷗外と佐藤元長との関係は 安藤昌

益と千住宿の関係を調べる会事務局長・矢内信悟氏

(相川)

田端から西新井大師へ 大師道を見る

◆あるむぜお 府中市郷土の森博物館

〒183-0026府中市南町6-32 TEL042-368-7921 1987年創刊

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

◇140 2022.6 A4 10p

表紙 復元建物、郷土の森に建つ その5 旧島田家住宅

復元建物、郷土の森に建つ その5 旧島田家住宅

佐藤 智敬

最近の発掘調査 東京競馬場構内の弥生時代前期の遺跡

湯瀬 禎彦

NOTE 小金井桜と川崎平右衛門

花木 知子

展示会案内 企画展 文字から探る古代の府中

石澤茉莉子

展示会案内 特別展 あしもとネイチャーワールド

府中いきものチャンピオン

中村 武史

多摩川今昔 TAMAGAWA IMA MUKASHI(1) 川を渡る手段

佐藤 智敬

新刊案内 『府中市郷土の森博物館紀要』35号／府中市内家分け古文

書目録20『新宿 菊池家文書目録Ⅱ(1)』／府中市郷土の森博物館ブ

ックレット23『多摩川中流域を歩く』

太陽系惑星ツアー(5) ぐるっと木星アドベンチャー

相澤 南美

◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒175-0092板橋区赤塚7-18-7 <http://okumusasi.travel.coocan.jp>

◇446 2022.7 B5 18p

山名標示板に思うこと

小泉 重光

武蔵国歴史漫遊二題 武蔵国物語り／日本三大奇襲の一つ、河越夜戦

関口 洋介

奥武蔵の股旅作家と親分衆(2)

相楽高志／大河原義重

天覚山から子ノ権現へ続く稜線上の山名

小泉 重光

◆儀礼文化ニュース 儀礼文化学会

〒160-0012新宿区南元町13-7 TEL03-3355-4188

◇226 2022.6 A4 8p

催事スケッチ 北海道室蘭市 室蘭神楽 悠然と北の海を泳ぐ鯨の舞

写真と文・久保田裕道

レポート 儀礼文化セミナー(令和3年度第3回) 生活工芸 「人形制作と現代の雛人形」 日本人形協会会長・(株)真多呂人形代表取締役 金林健史 井上 博也

儀礼文化を語る 儀礼文化講座(令和3年度第7回) 諸宗教 社会と宗教「一年の生活、一生の生活を支える諸宗教」 国立歴史民俗博物館教授 松尾恒一

第四十一回春季大会一催しは「女子元服式」を鑑賞／催し 女子元服式(弓馬術礼法小笠原教場) 栗田恵津子

会長式辞 九條 道成

第十一回定時社員総会開催／令和3年度 本科修了者

柳原一成先生を偲んで 久保田裕道

祖父と父の想いと共に 柳原 尚之

儀礼文化アーカイブ

第三回地方大会 住吉おんだ拝観と知恩院参詣 昭和58年6月 松崎 睦彦

◆城郭だより 日本城郭史学会会報

〒174-8691板橋区板橋北郵便局私書箱50号 TEL03-3967-1948
年6000円 1993年創刊

◇118 2022.7 A4 6p

弘前城天守現代工法で補強か一本丸石垣大改修による耐震補強
最近の城郭ニュースから1 武田氏館跡北に虎口／小豆島で未発見の
石丁場確認か／三木城跡 十五年ぶりの発掘調査へ／竹田城跡 櫓
門の礎石、石畳発見
最近の城郭ニュースから2 赤穂城跡 石垣発見、根石など確認／安
宅氏の新たな城跡か／木田城跡の地形図公開／白水城跡から陶磁器
目安箱 絵図・土図・木図(平成19年第58号『城郭だより』 西ヶ谷
恭弘執筆を転載)

◆杉並郷土史会史報

〒167-0022杉並区下井草3-12-9 新村康敏方 1973年創刊
<http://www.sugi-chiiki.com/rekishikai/>

◇294 2022.7 A4 8p 400円

杉並の古文書を読む 幕末に出された命令書(2)
沖本一暁／市丸有／坂井恒雄／菅野康彦
令和三年度(二〇二一年度) 杉並郷土史会定期総会次第
青梅街道と都電一思い出すまに 原田弘(前杉並郷土史会会長・故人)

◆世田谷区誌研究会会報

〒158-0094世田谷区玉川3-30-5 野岸敏雄方 年2000円

<https://setagaya-kushiken.jimdofree.com>

◇2022-7 2022.7 A4 6p

6月の行事報告 講演会「玉川全円耕地事業」染野和夫氏／国分寺

崖線史跡散歩を実施

世田谷の民話(29) つり鐘池の人身御供／祖師谷つりがね公園 作者・桜井正信

世田谷の民話(30) 鎌田村のそでぢぎりの椿／田中の森橋 作者・桜井正信

◇2022-8 2022.8 A4 4p

世田谷の図書館で借りられる会員の本 小倉明作(会員)

世田谷の民話(31) 美女、井の頭の龍神にお嫁入り／現在の民話のふ

るさと「江戸城御囲い松」の兄弟松 作者・桜井正信

世田谷の民話(32) 駒つなぎの「あし毛塚」に頼朝の涙／現在の民話

のふるさと 駒繫神社、あし毛塚 作者・桜井正信

◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会

〒157-0061世田谷区北烏山2-3-9-101 光田憲雄 TEL03-3307-2146

<http://daidogeinfo.info>

◇367 2022.6 A4 2p 100円

飴細工

銀つば だら焼 金つば／ところてん 金玉糖

◇368 2022.7 A4 2p 100円

秋から夏へ 旧暦から新暦へ 変化した物しなかったもの

夏から秋へかけての物売り

◆多摩地域史研究会会報

〒207-0033東大和市芋窪4-1735-1-103 梶原方 1991年創刊

<http://tamatikken.web.fc2.com>

◇149 2022.7 B5 8p

第30回大会報告 第30回大会参加記

宮澤美和子

資料紹介 あの旗を私にください

鈴木 武

地域史情報室 稲城市百村(もむら)妙見尊の蛇より行事／青梅市郷土

博物館企画展「霞台遺跡～見つけた！青梅・古代のくらし～」

◆東京産業遺産学会 NEWSLETTER

〒174-0046東京都板橋区蓮根2-29-10 新蓮根団地105 多田統一方 FAX03-

3964-8548／〒352-0011埼玉県新座市野火止4-8-43 柚須紘一方 FAX048-479-7490 年2000円 <http://tias3.web.fc2.com>

◇155 2022.7 A4 6p

港区立郷土歴史館を訪ねる

国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の保存と活用

杉山 宗悦

産業遺産関連の各種イベント再開へ ①東京家政大学博物館で「谷中

リボン展」を開催、②日本郵船歴史博物館と氷川丸

「港区立郷土資料館」の見学会報告

文・堀内仁之

茨城県ひたなか市の赤煉瓦建築物(2) 「那珂湊反射炉(復元)」

文・写真 八木司郎

◆東京大空襲・戦災資料センターニュース

〒136-0073江東区北砂1-5-4 政治経済研究所 TEL03-5857-5631

年2000円 2002年創刊 <https://www.tokyo-sensai.net>

◇41 2022.7 A4 16p

《早乙女名誉館長追悼号》

巻頭言

吉田 裕

来館について／開館要項

早乙女名誉館長の追悼特集

早乙女勝元名誉館長を偲んで

吉川 晃

早乙女勝元名誉館長は、“この灯を燃やし続けよう”と、生涯、自

ら実践

梶 慶一郎

喪主の早乙女愛さんのご挨拶より

はじめはみんな一人から

二瓶 治代

早乙女勝元さんを偲んで

竹内 静代

ウクライナに対する軍事侵攻の即時中止を求める声明

東京大空襲・戦災資料センター運営委員会

2022年夏休み特別企画のお知らせ

みんなでまなび、つたえよう！東京大空襲

東京大空襲・戦災資料センター 開館20周年「東京大空襲を語り継ぐ

つどい」

工藤 芳弘

開館20周年記念特別展「東京大空襲・戦災資料センターの開館とそれ

を支えた人たち」を開催しました！

比江島大和

寄贈資料のご紹介

空襲体験を描いた絵画作品の原画など35点

比江島大和

展示図録を刊行しました！

奇跡的に与えられた尊い命と、人類誕生以来続いている戦争について

思うこと	増澤 康年
ガイドボランティアとして目指すもの	関 隆史
2021年の来館者アンケートから	千地 健太

◆練馬郷土史研究会会報

〒179-0072練馬区光が丘5-2-3-806 鎌田茂男方 TEL03-3977-3091

年2000円 1956年創刊

◇385 2022.7 A4 2p

八王子城で発見された忍者の「撒菱」 八巻 孝夫

高札場 五月例会 東京二十三区を歩く(4) 江東区深川界限

◆東日本部落解放研究所ニュース

〒111-0024台東区今戸2-8-5 TEL03-5603-1863 1986年創刊

<http://www.hblri.org>

◇102 2022.6 A4 4p

第37回総会を開催 6月5日(土) 東上野区民館

報告 総会記念講演 1920年代の全国水平社と共産主義勢力

大阪人権博物館館長 朝治武さん

報告 2022年度第1回定例研究会 朋遠方より来る有り、亦樂しから

ずやー私が受けた部落差別

◆府中市郷土の森博物館紀要

〒183-0026府中市南町6-32 TEL042-368-7921 1988年創刊

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

◇35 2022.3 A4 54+94p 500円

府中市東部地域の古代集落 湯瀬 禎彦

南関東における室町期瓦工の様態—武蔵府中出土瓦を通して 深澤 靖幸

教科書に載った「くらやみ祭」—その教材活用について 小野 一之

天正・文禄期武蔵国多摩郡常久郷御縄打水帳について

—新たな二冊の検地帳の紹介を中心に 谷口 央

三田村鳶魚 晩年の大成経研究と徧無為三部神道の信仰について 野田 政和

資料紹介 屋根裏のお札群—内藤清兵衛家発見資料より 佐藤 智敬

◆民俗建築 日本民俗建築学会

〒162-0834新宿区北町18 TEL03-3260-3653 年9000円

<http://www.folkhouse.org>

◇161 2022.5 B5 135p

扉絵 旧尾形家 南房総市石堂 分棟型民家 重文 画・道塚元嘉

巻頭言 ニッカウキスキー余市蒸留所の重要文化財指定について 角 幸博

紙碑 杉本名誉会長を偲ぶ

杉本尚次前会長から会長を引き継いで 角 幸博

在りし日の杉本尚次先生を偲んで 秋山 晴子

関連分野の研究や批判を咀嚼して肉とする、さらに上を行く心意気

宮崎 勝弘

杉本先生へのおわび

森 隆男

懐かしの文字解読の楽しみ

出口 清孝

杉本尚次名誉会長の阪神淡路大震災報告を偲ぶ

原田 聰明

杉本尚次先生の思い出

千森 督子

野外博物館の師・杉本尚次先生

岸本 章

杉本尚次先生を偲んで―高津魂はいつまでも

河原 典史

民家研究の画期をなす『日本民家の研究』

津山 正幹

山梨県小菅村集落における農村舞台の建築的特徴について 金谷匡高／鈴木清

2021年度大会発表研究論文

料亭さとう別荘の配置と住まい

土田 充義

床の発生と間取りの展開

佐藤 正彦

旧三日月藩陣屋町と武家屋敷群(兵庫県佐用町)

陣屋町と武家屋敷の特徴

宇高 雄志

小正月行事でつくられる茅葺きのヤグラ―東京都多摩市乞田

松尾あずさ

日本の伝統的民家と気象マップの作成

出口 清孝

サーモグラフィーからみる夏における温熱環境の研究

―伝統民家及び現代風建物の測定

朴 賛弼

エチオピアのスルマ族の民家

佐藤 正彦

住まいと念仏

―富山県南砺市遊部地区・砺波市石丸地区に見られる農家住まい 内記 志朗

シンポジウム報告 信仰と環境―日常の住環境に見られる霊的な場

講演1『神を迎える場所―折口信夫の「まれびと」論に導かれて』

安藤礼二／講演2『霊的景観 ラオス深南部の水辺集落で生きた

る霊的世界』清水郁郎

実行委員 岸本章(委員長)・山崎祐子・佐藤照美・堤涼子

民俗建築アーカイブ(22)

広島・木原家住宅の調査記録(その1 昭和27年、36年の野帳から) 古川 修文

新島抗火石の町並み―台風被害調査と島内外における抗火石建造物の

保存活用に向けた取り組みについて

金谷 匡高

紙碑 富山博先生への追悼文

土田 充義

新刊紹介

小川格著『日本の近代建築ベスト50』

朴 賛弼

熊本市『重要文化財 細川家舟屋形解体移築業務報告書』

佐佐原圭子

朴賛弼著『韓屋と伝統集落 韓国の暮らしの原風景』

藤本 尚久

文献紹介 単行本・報告書・論文

神奈川県

◆うまゆみ 日本騎射協会

〒240-0107横須賀市湘南国際村1-15-3 宮川昇方 2020年創刊

<http://mgl-f.sakura.ne.jp>

◇4 2022.6 A5 15p

埼玉県指定無形民俗文化財 毛呂山町出雲伊波比神社の流鏑馬

一流鏑馬の来た道「鎌倉街道」

宮瀧 交二

弓馬名人伝02 中山家範

長塚 孝

流鏑馬は神事か仏事か

宮川 昇

狂言『稚児流鏑馬』について

村井 文彦

表紙 韃靼人狩猟図屏風 江戸時代 馬の博物館蔵

オリンピック聖火リレー渡来の郷へ

高麗神社広報部

◆小田原史談 小田原史談会

〒250-0021小田原市早川160 青木良一方 TEL0465-22-8852

年3000円 1961年創刊 <http://odawara-shidan.hustle.ne.jp>

◇270 2022.7 A4 40p

講演録 ポスターにみる戦後小田原の文化活動(下)

講師・星野和子

あしがり野に住んで85年―本物の人達との出会いと古文書と

話し手・藤平初江さん

日本画家・近藤弘明の芸術(5)―近藤弘明「幻華」展を終えて

田代 勉

小田原の梅干(上)―前羽地区を中心に

柏木 彩子

「北条五代記」(9) 関東長柄刀の事付かぎ鐙の事

勝 四郎

片岡日記 大正編(3) 大正十年六月～八月

片岡永左衛門

小田原史談会 令和4年(2022年)度年次総会・議案書

◆かまくら女性史の会 Newsletter

〒248-0012鎌倉市御成町18-10 N P Oセンター鎌倉気付 メールボックス26

2013年創刊 <https://kanagawajoseishi.jimdofree.com>

◇96 2022.7 A4 2p

支援を受けている人と共に働く

渡邊 公子

NL100号記念特集号企画

シリーズ：私たちの「戦争体験」No21 第7話「あたしの着物！」 曾原 糸子

報告1 国立女性教育会館が「かまくら女性史の会NL」を会館内専

門図書館「女性教育情報センター」で所蔵し、広く提供してくれる

ことになった。(横松)

ファンタスティックライブラリー111 第1回実行委員会

(石崎)

◆市史通信 横浜市史編集室

〒220-0032横浜市西区老松町1 横浜市中央図書館地下1階 TEL045-251-3260

2008年創刊 <https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/gaiyo/shishiorio/>

◇44 2022.6 A4 12p

横浜の児童水泳と臨海学校

金 耿昊

戸塚海軍病院看護婦の日々

羽田 博昭

一九二八年勸業課の御大典事業計画

百瀬 敏夫

戦後の寄贈品をめぐる一乳児保護協会と横浜国際婦人会

上田 由美

所蔵資料紹介 弾除け御守り・御札

百瀬 敏夫

◆クロス 常民文化研究会

〒254-0016平塚市東八幡2-8-20 西海賢二方 年1000円 1979年創刊

◇170 2022.8 B5 6p

連谷村よもやま話—奥三河の山里から(2)

安藤 久夫

史料紹介 「江戸中期の越後からの西国巡礼記」

西海 賢二

◆日本の石仏 日本石仏協会(発売：青娥書房)

〒254-0031平塚市天沼7-59-305 TEL0466-24-0203 年8000円

1977年創刊 <http://sekibutukyokai.jp>

◇177 2022.8 A5 64p 2000円

表紙 コロナ禍の三密 宮城県柴田町船岡の光大寺の五百羅漢

写真と文・田中英雄

特集 災害の石仏

伝承、供養と遺戒の石造物

中森 勝之

房総半島元禄津波の供養塔	三明 弘
天明大飢饉の供養塔―浅間山大噴火と異常気象	門間 勇
長崎・熊本 寛政四年の大津波による石造物について	前川 清一
大阪府下最古の石造狛犬	
一丹後半島型石造狛犬の展開から見た関大明神社像	山下 立
石幢探訪(2) 山梨県の室町時代前期の石幢	高野 幸司
石仏の風景(3) 羽前国の「伊豆神社」について	加藤 和徳
誌上講座 石仏入門(31) 「日本石仏図典」補足・V	門間 勇
あ・ら・か・る・と一私の石仏案内	
行田市自昌寺の青面金剛 埼玉県行田市鎌塚の自昌寺境内	門間 勇
准胝観音の三界萬霊塔 富山県富山市月岡	平井 一雄
会員の広場	
石仏＝地藏さま(富山県西部)	尾田 武雄
「石宗彫刻」銘がある庚申塔(横浜市緑区東本郷町)	伊東 英明
不思議な石額を発見! 調べてみると…(さいたま市中央区)	寺内 慎一
明星輪寺の虚像(岐阜県大垣市)	新井るい子
石灰岩質角礫岩で造られた石仏(埼玉県飯能市)	梶田 道行
第133回石仏見学会報告	
川崎宿と川崎大師周辺の石仏 案内者:中森勝之氏	門間 勇
日本石仏協会主催 バス石仏見学会報告 千葉県安房のやぐら、仏教	
説話と石仏巡り 講師:三明弘氏	三代川千恵子
第134回石仏見学会報告 千住宿の石仏 案内者:矢吹嘉朗氏	門間 勇

◆年報 首都圏史研究 首都圏形成史研究会

〒231-0021横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館内(事務局:西村健)	
TEL045-201-2169 年3000円 http://shutokenshi.org	
◇11 2021 2022.6 A4 60p	
関東大震災と大震災善後会―経済復興への取り組みを中心に	伊藤 匠
特集 戦後自治体史における「地域らしさ」を求めて	
特集にあたって	松本 洋幸
柏市の戦後開発をどう描いたか	
―『明日話せる柏学 かしわ時空散歩 近現代編』	櫻井 良樹
『市川市史 歴史編Ⅳ 変貌する市川市域』の編さん過程と課題	大矢悠三子
「地域史」としての「らしさ」―『市民が歩んだ80年―「藤沢らしさ」	
を求めて―(藤沢市、2021年3月)の編纂にあたって	小風 秀雅
書 評	

- 大石学監修／東京学芸大学近世史研究会編『江戸周辺の社会史—
「江戸町続」論のこころみ』 山崎 久登
松本洋幸著『近代水道の政治史—明治初期から戦後復興期まで』 中村 元
浅井春夫・川満彰・本庄豊・平井美津子・水野喜代志編『戦争孤児
たちの戦後史1～3』 西村 健
高村聰史著『〈軍港都市〉横須賀—軍隊と共生する街』 栗田 尚弥
首都圏形成史研究会活動報告
第115回例会 報告要旨
横浜における震災犠牲者慰霊の一過程
—李誠七と村尾履吉を中心に 金 耿昊
第116回例会
第117回例会 報告要旨
公営競技にみる行政区域拡大の論理
—1950～1970年代における収益均霑化問題 伊藤 陽平
大正中期の帝国議会請願と地域社会
—埼玉県秩父・入間郡界変更問題を事例として 石坂 桜
首都圏新刊案内 手島仁『画家・住谷磐根とその時代』／市川市史歴
史編Ⅳ編集委員会『市川市史 歴史編Ⅳ 変貌する市川市域』／谷
口榮『千べろの聖地「立石」物語』／高崎経済大学地域科学研究所
編『農業用水と地域再生—高崎市・長野堰の事例』（松本洋幸）

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021小田原市早川60 青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円

2003年創刊

◇76 2022.7 A5 144p 500円

- 川崎文学の展望 岸 達志
川崎長太郎が歩いてきた抹香町を辿る 芳賀喜久雄
金次郎の桜町至宝はどう終わったのか 尾上 武
あつという間の一年とは 後編 宮原 醇二
酒匂だより 「梅・ホタルブクロ」 町田紀美子
小田原・文学の小箱(6)—私のコレクションから
福田正夫と俳句一句集未載の四句 杉山 博久
新歴史講座案内「ヤマト政権と古代豪族」
続々・ボクの映画館(5) 駆逐艦とUボートの一騎打ち『眼下の敵』 平蔵 正
捜私漂白〔シリーズ〕の連載を終了て 小濤 眞宝
諸々の思い出(6) 田中 豊

小説一幕末銀板写真倶楽部 ポトゲラヒ(9)	荒河 純
小田原・伊豆を歩いた民俗学徒 木村博の足跡(下)	青木 良一
鉄斎の謎(2)	茂木 光春

◆民具マンスリー 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL045-481-5661 年3500円

1968年創刊 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp>

◇652 (55-4) 2022.7 A5 24p 350円

戦後日本におけるカロート式家墓の普及とその多様化

—霊園・石材事業者の資料をもとに

問芝 志保

松本市立博物館収蔵資料紹介—河原操子関連資料

武井 成実

民具サロン

ジョウゴ(吊り下げの手洗い器)

浜野 達也

雑 巾

加藤 友子

◇653 (55-5) 2022.8 A5 24p 350円

初午の旗飴—分布と原型

佐々木 天

子供の誕生にともなう絵馬奉納習俗—奈良県における分布と特徴(下)

浅井 裕登

アチック・ミュージアムの民具コレクション(42) 喜界島のウムエー

小島 摩文

施設紹介 ただみ・モノとくらしのミュージアム

久野 俊彦

◆悠 久 鶴岡八幡宮悠久事務局

〒248-0005鎌倉市雪の下2-1-31 TEL0467-22-0315 1980年第二次創刊

◇164 2022.4 A5 142p 680円

《特集 疫病信仰》

口絵 疫病に克つ

芳賀ライブラリー

疫病退散に祈りを込めて

阿部 武司

疫病鎮送の民間信仰—年末年始と節分を中心に

飯島 吉晴

律令国家と疫病祭—鎮花祭と三枝祭に見る古代国家の疫病祭祀

小林 宣彦

お江戸の麻疹をやっつけろ—はしか絵の効用

富澤 達三

アマビエのかしら版を読む

長野 栄俊

資料 上代より近世までの疫病流行年表抄

上代文献にみる災異疫疾とその考察

風早 康恵

口絵解説 疫病に克つ! がんばれ日本の祭

芳賀 日向

『松屋日記』にある澤庵宗彭筆 茶掛(書画)について

矢崎 格

八幡宮紹介 日和佐八幡神社（徳島県海部郡美波町）

新刊紹介 『歴史で読む国学』 國學院大學日本文化研究所編／三笠宮

崇仁親王殿下に捧ぐ『新嘗の研究』第七輯 いになめ研究会(代表

小島瓔禮)編

新潟県

◆高志路 新潟県民俗学会

〒950-0916新潟市中央区米山3-1-31-1101 金田文男方 TEL025-241-9402

1935年創刊 <https://fsnp.mints.ne.jp>

◇425 2022.7 A5 52p

「逆(逆修)」について

一高野山清浄心院「越後過去名簿」などを中心として

「嘉永元年 叶津口留番所往来日記」

動植物への造塔供養

文から始まる民俗

ツツガムシ病除けの願い

令和4年度春の談話会発表 福島県の古四王神社

表紙写真

質問 盆棚の位置

令和4年度春の談話会報告

表紙写真 「ショウレンボウ迎え」

中蒲原郡村松町(現五泉市)中名沢 昭和61年8月13日

山上 卓夫

小澤 弘道

大竹 信雄

佐藤 和彦

金田 文男

高山 秀一

駒形 聡

金田 文男

岩野 邦康

撮影・駒形 聡

◆ふるまち良寛てまり庵通信

〒951-8063新潟市中央区古町通2-538 TEL025-378-2202

<http://www.kokodo.co.jp/ryokankai/temarian/>

◇32 2022.7 A4 6p

こしの仙涯画・良寛和歌「国上山松風涼し越え来れば山時鳥をちこち

に鳴く」

新潟西海岸公園を歩く(1)

良寛百態

高橋郁丸・画

付録 良寛遺墨シート 靈照女画賛「清水出芙蓉 天然 去 雕飾」

解説・小島正芳

言霊 「居諸荏苒朝又夕 回首六十有余年 可憐此中可何事 総為霜

雪上鬢辺」

◆まきの木 巻郷土資料館友の会

〒953-0041新潟市西蒲区巻甲3069-1 TEL025-672-6757 年1500円 1978年創刊

◇116 2022.7 B5 20p

「嚴白樞下翁碑(いづかしがもとのおきなひ)」の正しい碑文と建立

理由―頌徳碑の建立された事情―	―館貞行の思想とは―	亀井 功
旧牧町酒造と角田山伏流水そして、治水		江端 完治
平野秀吉旧蔵品とその目録について		槇田 善衛

◆良寛だより 全国良寛会会報

〒951-8112新潟市中央区南浜通2 北方文化博物館新潟分館内

TEL025-222-2262 1978年創刊

◇177 2022.7 A4 20p

「盆踊り」(富川潤一・画) とみかわ・じゅんいち(明治40～平成7年)

(出雲崎町良寛記念館蔵)

リレーエッセイ 良寛つれづれ(26)	良寛さんの『自然のこころ』	佐藤 亨
良寛遺墨鑑賞(25)	俳句 そめいろの	小島 正芳
良寛堂建立百周年記念 第四十四回全国良寛会出雲崎大会		
良寛さんが生まれた出雲崎から(下)		渡邊 モト
相馬御風の良寛(26)	良寛堂建立と靱彦・耐雪・御風(上)	金子善八郎
玉島時代唯一の良寛書を初展示		

開館一周年の「きび美ミュージアム」	きび美ミュージアム
忘れ得ぬ人びと(8) 瀬戸内寂聴先生の良寛	加藤 僖一
良寛を今に伝えた人びと(7) 大関文伸	本間 明
貞心尼没後一五〇年忌 今だからこそ伝えたい貞心尼の心と和歌の魅	
力／良寛の愛弟子 貞心尼 遺墨紹介	安達 武男
良寛 辞世の詩歌	吉田 福恵
新刊紹介 『短歌を俳句に詠み替える 百人一首と良寛』	柳本 雄司
会報紹介 上州良寛第54号(上州良寛会)、鉢の子たより第35号(東京良寛会)、良寛さま第14号(良寛クラブ南魚沼)、にいがた良寛第76号(新潟良寛会)、洗心第31号(御風会)	
良寛を訪ねて(26) 燕市分水 解良家(上)	吉井 清一

◇別冊『良寛 珠玉の言葉』(2022年7月 B5 34頁)

野積良寛研究所所長 本間明編 (〒940-2501長岡市寺泊野積203-8)

良寛の心に響く言葉52句を選んで、詳しい解説とともに紹介。

富 山 県

◆富山史壇 越中史談会

〒930-0115富山市茶屋町33-2 富山県公文書館内 TEL076-434-4050

1954年創刊 <https://shidankai.web.fc2.com>

◇198 2022.7 A5 67p 1300円

『乙夜之書物』に記された明暦の大火

一加賀藩士関屋政春が見た江戸の災害

萩原 大輔

版木が伝えた祭礼の変遷—近代放生津曳山の刷物

松山 充宏

太平洋戦争下の占領地における医薬品製造の実態

—ビルマに進出した富山市内一メーカーの事例から

高岡 徹

史料紹介 立山・伊勢・西国道中記(下)

鈴木 景二

最近の地方史情報

石 川 県

◆石川れきはく 石川県立歴史博物館

〒920-0963金沢市出羽町3-1 TEL076-262-3236 1986年創刊

<http://ishikawa-rekihaku.jp>

◇138 2022.4 A4 8p

表紙：脇指 銘〔表〕賀州住兼若作 〔裏〕慶長拾二年二月日 桃山

時代 慶長12年(1607)個人蔵

令和4年度 春季特別展「大加州刀展」 前回を超える加州刀約100点

が一堂に！500年以上にわたる加州刀の歴史に迫ります。

資料紹介 「前田利常書状 浅野藤左衛門宛」について

野村 将之

学芸員コラム 展示をめぐるあれこれ—令和3年度春季特別展「小原

古邨—海をこえた花鳥の世界—」を振り返って

中村真菜美

研究ノート 新収蔵の「前田利家書状 越後中納言宛」をめぐって 塩崎 久代

◇139 2022.7 A4 8p

表紙：兼六園集合写真（納富介次郎(号：介堂)と側近教師ならびに生

徒）明治44年(1911)個人蔵

令和4年度夏季特別展「工芸教育の精華—納富介次郎とデザインの思

想—」日本最古の工芸・デザイン教育工芸王国を創り上げた革新

的な教育内容に迫る

資料紹介 「水墨山水図」—納富介次郎・巡回教師までの足跡

鶴野 俊哉

学芸員コラム 新型コロナウイルスと歴史博物館

大井 理恵

◆加能民俗 加能民俗の会

〒920-0963金沢市出羽町3-1 石川県立歴史博物館内 TEL076-262-3236

年4000円 1950年創刊

◇165 (12-23) 2022.3 A5 6p

石川郡の神社合祀において一大字複数社が存置されて場合：

三馬村字横川の二社

由谷 裕哉

金沢市西念のネバ屋とゴミ穴一壁土採取業聞き取り

大門 哲

書誌紹介

松本孝三『昔話伝承のフォークロア―畏怖と安寧の語り』

大門 哲

◆加能民俗研究 加能民俗の会

〒920-0963金沢市出羽町3-1 石川県立歴史博物館内 TEL076-262-3236

年4000円 1972年創刊

◇53 2022.3 A5 53p

明治期の加賀万歳

東條さやか

近世の鶴祭

干場 辰夫

「火の玉出現」直後一怪火・怪光の同時誌

大門 哲

福 井 県

◆お天守だより 丸岡観光ボランティアガイド広報誌

◇5 2021.4 A4 2p

もう一つの自慢 天守から見える丸岡の町並み

水崎 亮博

丸岡城のルーツ “豊原寺”

大霜 徹夫

ろう者対応について

坂本恵美子

一乗城山にチャレンジ

井上弥生子

丸岡城天守の転用石

松本 盛博

ガイド体験談 お客様の言葉が励み

戸田 菊栄

丸岡城ガイド・こぼれ話 ③最古の天守がなぜ国宝ではないのか？／

④国宝の天守、以前はいくつあった？

水野 信好

◆若越郷土研究 福井県郷土誌懇談会

〒918-8113福井市下馬町51-11 福井県立図書館内 TEL0776-33-8860

年3500円 1956年創刊

◇314 (67-1) 2022.7 B5 76p

織田政権と越前一揆の攻防

竹間 芳明

「永平寺寺境絵図」について

—景観年代ならびに制作契機、塔頭に関する試論

国京 克巳

一九一〇年の「純日本種狼」

—「最後のニホンオオカミ」をめぐる論争と資料

長野 栄俊

「南越雑話」(9)一翻刻と現代語訳

「南越雑話」輪読会

福井県における郷土研究・郷土誌の動向—令和三年度分

本会事務局・福井県立図書館郷土資料グループ編(事務局 前田眞佐子)

山 梨 県

◆地域と社会 佐藤弘

〒402-0005都留市四日市場902-3 2017年創刊

◇11 2022.6 B5 25p

近代の地域社会における伝説の成立と文化財保護

—明治時代の南朝顕彰との接点

森屋 雅幸

紹介 安藤正文著『山梨県郡内地方の覚え書き—地域史からの学び』蒲原まゆみ

長 野 県

◆飯田市歴研ニュース 飯田市歴史研究所

〒395-0803飯田市鼎下山538 TEL0265-53-4670

<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/>

◇119 2022.8 A4 4p

第19回飯田市地域史研究集会 満洲移民—下伊那から再考する

ワークショップ「コロナ禍のなかから生存の歴史を問う」を開催し

ました

田中 雅孝

ワークショップ「書評会 本島和人著『満洲移民・青少年義勇軍の

研究』」を開催しました

太田 仙一

リレーミニエッセイ(25)「学びとは何か」という問い

多和田真理子

研究紹介 地図史料からみる遠山の農業景観

福村 任生

飯田アカデミア2021第93講座 私流 歴史の本のつくり方—編集者と

して考えてきたこと 井上一夫さん(元岩波書店取締役)

◆伊 那 伊那史学会

〒395-0081飯田市宮ノ上4048 TEL0265-22-6017 年5500円

◇1130 (70-7) 2022.7 A5 50p 550円

口絵 阿南町根吹遺跡出土の小型石器

市澤 英利

地域に観る権力象徴の移易

桐原 健

神坂峠東麓の登山道 遺物採集記

市澤 英利

飯田市松尾・平遺跡の古墳時代集落について

一宅地造成工事で発見された遺構・遺物から

春日 宇光

追悼・松島透君との青春記

北原 敬悟

古墳研究メモ 古墳の築造年代を読む

小林 正春

高森町の秋葉信仰調査報告(下)

鈴木 信孝

令和3年下伊那考古学年報

小林 正春

令和3年考古学関連年報

下伊那日録 2017(平成29年)8月～10月

寺田 一雄

◆伊那路 上伊那郷土研究会

〒399-4117駒ヶ根市赤穂11193-7 吉田保晴方 年6000円

◇786 (66-7) 2022.7 A5 40p 600円

一文書による街道机上考

下嶋 昌平

戸台分校物語(2)一へき地教育の到達点

岩崎 靖

上伊那に來た農耕勤務隊(4)一戦争末期の朝鮮半島出身の「日本兵」

原英章／唐木達雄

安政国役御普請(8)

一御目論見・御見分中および御丁張・御仕立て中の諸入用

春日賢太郎

古文書の窓(168) 心優しい代官からの書状(1)

三浦 孝美

三義山室の七面講

中崎 隆生

図説・上伊那の民俗(60) 四十九日の納骨(飯島町本郷)

三石 稔

徒然さんぽ(36) 三峰川の霞堤 伊那市美篋青島

絵と文・吉田勝美

◇787 (66-8) 2022.8 A5 40p 600円

《終戦特集》

満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか(上)

一鉄驪義勇隊小池中隊 橋爪五郎氏の体験から考える

矢澤 静二

戦時下、少年期の思い出2話

一陸軍伊那飛行場・朝鮮の家族の受け入れ

橋爪 剛健

上伊那へ來た農耕勤務隊(5)一戦争末期の朝鮮半島出身の「日本兵」

原英章／唐木達雄

戸台分校物語(3)一へき地教育の到達点	岩崎 靖
図説・上伊那の民俗(61) 水榭と水番(伊那市内の萱横山井)	三石 稔
徒然さんば(37) 千畳敷カール 駒ヶ根市	絵と文・吉田勝美

◆伊那民俗 柳田国男記念伊那民俗学研究所

〒395-0034飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館内 TEL0265-22-8118

年3000円 1990年創刊 <https://inaminkenhome.blogspot.com>

◇129 2022.6 B5 8p

表紙 虫供養／おさなぶり(熊谷元一写真童画館提供)	北原いずみ
コロナ下の民俗芸能(2021年4月～2022年3月)	近藤 大知
飯田下伊那の御柱祭2022(1)	近藤 大知
報告 2022年総会・講演・研究発表	今井 啓
報告 特別例会 折口講座「小栗外伝」を読む	
小川直之所長講義要旨	今井 啓
表紙写真解説 豊かな実りを願う農耕儀礼	北原いずみ

◆信濃 信濃史学会

〒399-0036松本市村井町南1-28-35 年10200円 TEL0263-58-1213

<http://www.shinano-shigakukai.jp>

◇869 (74-6) 2022.6 A5 84p 1150円

御柱祭における曳き綱製作一富士見町富士見地区を事例として	石川 俊介
「割山」再考一古川貞雄と西川善介の研究を出発点に	斎藤 一
石川数正の晩年	宮島 義和
史料紹介 函館市中央図書館所蔵『松風夷談』の解説と翻刻	星野 岳義
書 評	

市東真一『祭礼における権威創造の民俗誌一旦那衆・町鳶・若連』 倉石 忠彦

本島和人『満州移民・青少年義勇軍の研究一長野県下の国策遂行』 伊藤 純郎

長野県郷土雑誌関係要目／雑誌関係要目

◇870 (74-7) 2022.7 A5 102p 1150円

《隣県特集号 隣県地方史学界の動向一令和3年(2021年)》

山梨県地方史研究の動向 上野桜／西川広平／高橋修

新潟県地方史研究の動向 石原正敏／浅井勝利／田嶋悠佑／渡部浩二／荒川将

群馬県地方史研究の動向 丑木 幸男

愛知県地方史研究の動向 日吉康浩／神谷智／石田泰弘／上田早織／山下廉太郎

岐阜県地方史研究の動向 村瀬泰啓／堀祥岳

埼玉県地方史研究の動向 堀口智彦／根ヶ山泰史／榎本博

富山県地方史研究の動向

鹿島昌也／松山充宏／尾島志保／森俊

長野県地方史研究の動向

櫻井秀雄／福島正樹／市川包雄／田玉徳明／田澤直人

◆地域文化 八十二文化財団

〒380-0936長野市岡田町178-13 TEL026-224-0511 1987年創刊

<https://www.82bunka.or.jp>

◇141 2022.7 A4 33p 350円

《千国街道》

物流の道 千国街道

胡桃沢勘司

フォッサ・マグナが生んだ千国街道

市川 正夫

千国街道を歩く楽しみ（北安曇郡小谷村）

編集室

対談 千国街道の宿場町 大町の歴史を今に生かす

小林茂喜／渡邊充子

『信州の「三太郎」』

小松 和彦

日本画と私(17)「縄文の息吹に触れる旅」

藤井 聡子

A Day in the Life(5)「伝統と変革と継続」

写真・文 砺波周平

未来への萌芽(5)「自然をつなぐ人々」

栗林 勇太

調査報告 碑に刻まれた地域の駅氏と文化「仁科森遠の警塚」

小池 博子

ゆたかなる地域のことば(29)―地貌季語を楽しむ―「恙虫」

宮坂 静生

◆千 曲 ふるさとに学ぶ 東信史学会

〒386-0024上田市大手2-7-13 上小教育会館内 TEL0268-24-2182

年3000円 1974年創刊

◇177 2022.6 A5 63p

上田城下町の形成過程

尾見 智志

追分宿伝来の天和元年裁許裏書絵図およびそれに至る争論(2)

―争論の背景と絵図作成の真のねらい

江川 良武

幕府御触にみる江戸時代中期の上田藩鎌原村

―沓掛清次郎家の酒造について

宮島 寿子

郷土史随想 忘れられつつある文化財にスポットライトを

井出 隆

連載講座 古文書解読講座 第168回

寺島 隆史

地区だより(上田地区) 古文書学習会「山なみ」の活動

宮島かつ子

扉写真と解説 小諸市重要無形民俗文化財 ささら踊り

牧野 和人

◆長野県民俗の会通信

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円

<http://nagano-minzoku.chu.jp>

◇290 2022.7 B5 12p

コロナ禍中の御柱祭一何を守り、何を置き換えたか

太田 真理

第二二九回例会に参加して

武井 成実

書評 安室知著『日本民俗分布論 民俗地図のリテラシー』

福澤 昭司

葉書でつぶやくコーナー ムラシゴトのこと

田澤 直人



* 3年目に入った新型コロナウイルスの感染。この間、日本中で多くの祭りや年中行事が中止、あるいは規模縮小、変更を余儀なくされている。今年は、長野県諏訪の諏訪大社を初め、県内各地の諏訪神社とその小宮の殆どで寅と申年を開催年とする式年造営御柱大祭(「御柱祭」)の年に当たっている。大元の諏訪大社の行方が注目されていたが、神木を

山から切り出す山出しはトレーラー運搬とし、観光客用の有料観覧席は設けず、里曳きは氏子のみの曳行で行うなど最大限の感染防止対策を施して実施された。これから秋にかけて実施するところもあるが、他の諏訪神社と小宮は概ねこれに倣った。

太田真理「コロナ禍中の御柱祭一何を守り、何を置き換えたか」は、春に実施された県内7社の御柱祭の行事で、中止や変更されたことと、守られたことの実施状況を調べ、そこから祭りの在り方を考察した興味深い論考である。

里曳きは大勢の人出を要し、振る舞い酒などを伴って賑やかに行うことを常とするが、今年は様々な制限やトラックや重機などによる部分的代行が導入された。一方で、伐採した神木の皮を手作業で剥く木作り、神輿による先導、曳行に伴う木遣りなどの神事は従来通り行われた。地域の祭として守るべきものは何か。「苦勞して曳き建てるのが神への奉仕につながると同時に、氏子にとっては祭りのやり甲斐になっていたとも見受けられた」。新型コロナウイルスは大きな奇禍であったが、これにより祭りの本質が鮮明になり、住民の意識が高まったことが分かる。

岐 阜 県

◆岐阜市歴史博物館だより

岐阜市歴史博物館 〒500-8003岐阜市大宮町2-18-1 岐阜公園内 TEL058-265-0010／加藤栄三・東一記念美術館 〒500-8003岐阜市大宮町1-46 TEL058-264-6410 1985年創刊

◇111 2022.7 A4 8p

表紙 青い目の人形 「メリーブランナー」 1920年代半ば 七宗町立
上麻生小学校蔵、「パッテロー」 1920年代半ば 八百津町立和知小
学校蔵

企画展「学制発布150年記念 岐阜の学び舎150年」

加藤栄三・東一記念美術館「栄三・東一 鶴飼に魅せられて」

博物館ニュース「歴博セレクション 博物館で旅気分!! ～江戸時代の
旅行ブーム」を開催しました

立政寺と淀稲葉家(前編)

中島 雄彦

静 岡 県

◆静岡県近代史研究会会報

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室
年4000円 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇526 2022.7 A4 4p

7月例会レジュメ 「統帥権独立」とは何だったのか？

一政治介入と自製の論理

高杉 洋平

河鍋暁斎門下の女流画人綾部暁月と旧幕臣桑原三

樋口 雄彦

「歴史総合」に関する雑感

川上 努

◇527 2022.8 A4 4p

2022年大杉栄・伊藤野枝・橘宗一墓前祭について

小池 善之

川端康成の熱海文士村構想

田中 慶子

ミニシンポジウム「金原明善のこれまでとこれから」コメンテーター
の公募について

◆静岡県地域史研究会会報

〒412-0043御殿場市新橋1891-1 厚地淳司気付 年4000円 2011年創刊

◇243 2022.7 B5 4p

静岡市歴史博物館七月にプレオープン 一月に全館開館

廣田 浩治

5 月例会報告要旨

「駿府家康政権論一課題と問題提起」 廣田浩治

廣田 浩治

6 月例会報告要旨「天正十九年に藤原を称する家康一笠谷和比古氏・

岡野友彦氏の天正十六年源氏改姓に係る所説を否定する史料」 小林輝久彦

◆静岡県民俗学会会報

〒424-0053静岡市清水区渋川1-9-35 <http://web.thn.jp/s-folklore/>

◇184 2022.8 A4 8p

梯子供養

渡邊 好洋

令和4年度静岡県民俗学会 総会・大会報告

(川口記)

◆静岡歴史研会報 静岡県歴史研究会

〒422-8045静岡市駿河区西島363-55 篠原旭方 TEL054-286-8659

◇162 2022.6 B5 8p

4月24日(日) 令和4年度総会

5月29日(日) 第132回研究会 須山、望月各氏発表 須山忠治氏の
「【長田地区の家康公の足跡】について」の概要／望月茂氏の「【難
所・宇津ノ谷の峠と集落探訪】について」の概要

愛 知 県

◆岩瀬文庫だより 西尾市岩瀬文庫

〒445-084西尾市亀沢町480 TEL0563-56-2459 2004年創刊

<https://iwasebunko.jp>

◇73 2022.6 A4 4p

特別展「三河大浜騒動150年～近代化の光と影」／次回予告 愛知県美術
館・愛知県陶磁美術館共催 「移動美術館2022 もじもえもじも」
新収蔵品公開一西尾城絵図 「三州西尾城下絵図」81×119cm／夏休み
塩田体験 参加者募集～昔ながらの塩田で塩をつくろう 西尾市塩
田体験館吉良饗庭塩の里

資料紹介 西尾市指定文化財『明治殉教絵史』4冊 田中長嶺 明治
40(1907)年 聖運寺(西尾市中町)蔵

◆蓬 左 名古屋市蓬左文庫

〒461-0023名古屋市中区徳川町1001 TEL052-935-2173 1980年創刊

<http://housa.city.nagoya.jp>

◇103 2022.6 A4 8p

表紙 相応院消息

『青窓紀聞』で読む水野正信の〈声〉

今和 泉大

展示室1・2 祭りの世界—風流と仮装

展示室1・2 秋季特別展 名物—由緒正しき宝物

尾張の筆まめの日記伝(3) 鸚鵡籠中記と千代倉日記(後)

大名行列の光と影

井上 善博

表紙 相応院消息(そうおういんしょうそく)

亀井久美子

蓬左通信

星子 桃子

◆まつり通信 まつり同好会

〒458-0006名古屋市緑区細口3-161 田中青樹方 TEL052-877-3497 年5000円

1961年創刊 <http://www.wa.commufa.jp/matsuri/>

◇620 (62-4) 2022.7 A4 8p 600円

表紙写真の言葉 尾張津島天王祭 愛知県津島市神明町 津島神社 坂本 要

南西諸島の輪踊り(サークルダンシング)(2)—奄美諸島(1) 坂本 要

名古屋東照宮祭の持提番 鈴木 雅

新刊紹介 若狭あどろがたり集成—昔話・伝説・語り部

若狭路文化叢書第十七集

学会・研究会情報 民俗芸能学会 研究例会／民俗芸能情報 国立劇

場公演／受贈資料紹介(582)

滋 賀 県

◆湖国と文化 びわ湖芸術文化財団

〒520-0806大津市打出浜15-1 TEL077-523-7146 年2520円 1977年創刊

<https://www.biwako-arts.or.jp>

◇180 (46-3) 2022.7 B5 88p 600円

表紙 松前屏風(北海道松前町郷土資料館蔵)の中央部分(デザイン・

神戸鶴亀本舗 石井章)

《特集 再考・近江商人—「三方よし」を超えて》

プロローグ

近江商人からの「伝言」 文・編集室／写真・辻村耕司／デザイン・石井章

再考・近江商人研究の来し方・行く末 宇佐美英機

東北地方の近江商人 中井家四代目当主の日記から 青柳 周一

近江商人と北海道小樽 明治期の八幡2家にみる 菅原 慶郎

表紙の屏風について「松前屏風」／初代中井源左衛門「金持商人一枚

起請文」翻刻

編集室

近江商人基礎編

八幡商人とは 舟運など城下町の遺産 商人集住、輩出の嚆矢に 烏野 茂治

八幡商人に出会う 「革新の伝統」450年 西川甚五郎本店史料館 編集室

日野商人とは 商人組合結成、支え合う

宿・運送に特典、共栄目指す

岡井 健司

とっておきの近江日野商人に出会う

満田 良順

五個荘商人とは 隙間の商機、つかみ飛躍

後発ゆえ多様、五個荘商人

上平 千恵

五個荘商人に出会う・感じる 金堂地区と周辺 近江商人博物館 福井 瞳

もうひとつの近江商人 辻鋳物師と辻村商人

井上 優

近江商人基礎編関連地図

インタビュー 湖と生きる 「石の声を聴け」「表より裏」の教えと歩

む 「現代の穴太衆」栗田純徳さん

聞き手・三宅貴江／写真・中村憲一

ぶらり近江はっけん伝(21) 土山

岸野 洋

カラグラフィア

琵琶湖センス・オブ・ワンダー 湖と人とは織りなす歴史と今(6)

分布100種「トンボの宝庫」に変化

文・琵琶湖博物館 八尋克郎／写真・オザキマサキ

祭の美 祈りのかたち(14) 丹精込め大輪の花 疫神引きつけ破却

(花奪神事<ハナトリの花>=甲賀市信楽町多羅尾里宮神社)

写真・文 川島朱実

万葉の旅人(13) 楽浪の志賀津の児らが罷り道の川瀬の道を見れば

さぶしも(巻二-218 柿本人麻呂)

文と曲・林博通／画・鈴木靖将

歴史の玉手箱(24) 滋賀県はいつ誕生したのか

大月 英雄

湖国のつなぎて一地域おこし協力隊探訪記(1)

L L P 木民(長浜市)

文・写真 船崎 桜

近江の人と響き合う心 新史料、芭蕉の創作の姿

高井 悠子

近江の懐(21) 彦根市大藪

大藪集落、大藪おどり、子どもたちを大切に见守る

加藤 賢治

大藪のシャツ屋

石川 亮

トムさんの日野暮らし(8)

祭囃子の「種」 真似る。観察と考察が生む「100%超え」 トム・ヴィンセント

湖国と文化・地域記者レポート 北から南から

花と緑と“ふるさと”を育てる

大塚佐緒里

「自分を生きる」奥山の暮らし

長澤由香里

今来の才伎(1) 彦根のビワマス漁師 森勝昭さん

野田 太郎

◆戦国史と人 女風林火山 戦国史と人を学ぶ会／武田勝頼・松姫研究会

〒520-0528大津市和辻高城289-11 首藤義之方 年1400円 1987年創刊

◇69 2022.7 B5 80p

《特集2 続・佐々木六角氏と信長・秀吉・家康(下)》

佐々木六角義実・義秀・氏郷の实在を証明する十通の書状(写)

首藤 義之

『江源武鑑』所載の書状類写(全26点)は偽文書ではない(2)

首藤 義之

コラム 武田信玄不動明王座像を制作した仏師康住について

編集部

京 都 府

◆史迹と美術 史迹美術同友会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入西大路町146 中西ビル内

Tel075-462-4292 年8000円 1930年創刊 <https://www.shibikai1930.com>

◇925 (92-5) 2022.6 A5 62p 918円

日本庭園・石造美術あれこれ(9) 南禅寺大石燈籠の構造的特徴

尼崎 博正

史迹美術同友会 創立九十周年を迎えて

九十周年記念号発刊について

丸山 貞

創立記念会一覧

「史迹と美術」各年別総目次

(平成27年1月→令和元年12月 851号→900号)

例会一覧(平成27年12月から令和2年11月まで)

石造美術勉強会一覧

新年宴会一覧(平成28年以降)

各年例会皆出席者名(平成27年以降)(五十音順)

主幹と歴代会長／歴代副会長／物故された名誉会員・元役員・顧問

／顧問・名誉会長・名誉副会長・役員

九十周年に寄せて

「椿井文書」にご留意を

丸山 貞

「思い出」と「今」の遭遇

矢ヶ崎善太郎

史迹美術同友会の九十周年によせて

吉村 龍三

九十周年、おめでとうございます

加藤 友規

私と史美会との縁

田中 康夫

史美会例会余香一大津市下仰木「東光寺」の建築

加藤 繁生

祝 九十周年記念	八田 洋子
史迹美術同致会九十周年記念に寄せて	木下 浩良
新刊紹介 『熊谷市史』 調査報告書一中世の石造物	村田 和義
九十周年記念寄付報告（敬称略・五十音順）	
◇926 (92-6) 2022.7 A5 28p 918円	
抜き取られ移動させられた高野山町石五輪卒塔婆(下)	木下 浩良
画論研究(3) 『画筌』の研究—現代語訳付(3)	寺本 健三
九州の石塔調査報告 7. 熊野神社線刻阿弥陀如来立像自然石塔婆	佐藤 誠
第1096回 仁和寺周辺の文化財を訪ねる	吉村 龍二
お詫びと訂正のお願い 九十周年記念寄付報告	

◆都藝泥布 京都地名研究会通信

〒610-1126京都市西京区大原野上里男鹿町14-5 入江成治方 FAX075-331-3431
年3000円 2002年創刊 <https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei>

◇77 2022.6 A4 8p

第21回総会・本会創立20周年記念講演会・祝賀会

講演1 地名の漢字から読み取れること	講演者：笹原宏之氏	中島 正
--------------------	-----------	------

講演2 歴史と地名学	講演者：服部英雄氏	中島 正
------------	-----------	------

20周年記念事業の報告と御礼	小寺 慶昭
----------------	-------

『瓦版30号』を同封しました。	小寺 慶昭
-----------------	-------

第58回地名フォーラムご案内 研究発表「三輪山」考—山名について

の試(私)論 発表者：堀田悟史氏（前龍谷大学教授）、講演「地名
研究法私観」 講演者：工藤力男氏（成城大学名誉教授）

地名随想

小野小町伝承と地名 連載2 福知山市小野脇小町伝承	明川 忠夫
---------------------------	-------

平安京を偲ぶ町名 連載2 鷹司町(たかつかさちょう)	清水 弘
----------------------------	------

「菅大臣・菅大寺・寛大寺」	中井幸比古
---------------	-------

◆洛北史学 洛北史学会

〒606-8522京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学文学部歴史学科内

Tel075-703-5259 1999年創刊

http://www2.kpu.ac.jp/letters/hist_studies/rakuhoku/

◇24 2022.6 B5 119p

特集 歴史学におけるデータベースの活用と課題

特集にあたって	東 昇
---------	-----

特集の趣旨について—大会趣旨文より	庶務委員一同
-------------------	--------

- 美術史学と博物館における「記述」と「写真」
- ー研究の方法論とデジタル化との関連から 宮崎 幹子
- 歴史学の変革は如何にして可能か
- ーデジタル技術との関係から考える 福島 幸宏
- 後宮十二司の解体ー蔵司・書司を中心に 岡島 陽子
- 境界線を引きなおす
- ーヨセフ・ブリュエンニオスのキプロス正教会批判をめぐって 藤田 風花
- 書 評
- 村井章介著『古琉球 海洋アジアの輝ける王国』 中村 翼
- 岡本隆司著『シリーズ 中国の歴史⑤ 「中国」の形成 現代への
展望』 村井 章介
- 新刊紹介
- 岡本隆司・石川禎浩・高嶋航編訳『梁啓超文集』 王 艶文
- 天野真志著『幕末の学問・思想と政治運動ー気吹舎の学事と周旋』 滝澤 和湖
- 藤尾慎一郎著『日本の先史時代 旧石器・縄文・古墳時代を読みな
おす』 池田野々花
- 芳澤元編『室町文化の座標軸ー遣明船時代の列島と文事』 相馬 和将
- 大会・例会報告要旨
- 第23回洛北史学会大会
- 大会テーマ「歴史学におけるデータベースの活用と課題」
- 報 告
- 歴史史料の目録DBについて 野村 朋弘
- 仏教美術写真とデータベース
- ー奈良国立博物館における蓄積と公開のあゆみ 宮崎 幹子
- 歴史学の変革は如何にして可能か
- ーデジタル技術との関係から考える 福島 幸宏
- 討論記録
- 第22回洛北史学会定例大会
- 藤田風花氏「境界線のメンテナンスーヨセフ・ブリュエンニオス
のキプロス正教会批判をめぐってー」
- ルーベックイアン栄氏「幕末における相撲に対する認識の変化」
- 川瀬貴也氏「大正期新宗教と女性ー西田天香の記述を中心にー」

◆立命館大学国際平和ミュージアムだより

〒603-8577京都市北区等持院北町56-1 Tel.075-465-8151 1993年創刊

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp>

◇87 (30-1) 2022.6 A4 19p

ミャンマーの軍事クーデターを非難し、民主主義の破壊を憂慮する

吾郷眞一／安斎育郎

ロシアによるウクライナ侵略を糾弾し、ウクライナ市民との連帯を表

明します

立命館国際平和ミュージアム

第2期リニューアルにむけて

展示報告

1 常設展／2 特別展／3 アウトリーチ／4 常設展巡回展示
平和教育研究センター活動報告 1 センター企画・公開講演会／2

プロジェクト研究／3 センター活動の発信

教育普及活動報告

博物館資料 資料・図書の受入（寄贈・寄託）

2021年度活動記録

遊心雑記 福島に咲くか、愛吉・すずのバラ

安斎 育郎

大 阪 府

◆泉佐野の歴史と今を知る会会報

〒596-0845岸和田市阿間河滝1425 井田寿邦方 TEL0724-28-0204
年1200円

◇415 2022.7 B5 16p

「和泉國泉郡内畑村繪圖」を読む(7)ー水利環境を中心に 其の七

現代水利の行方

池田 雅治

史料紹介 山本家文書 明治末年頃の佐野……寺社と檀家・氏子

井田 寿邦

現代語訳「食家と佐野と海」(23)

二山 和美

史料紹介 泉州の寺社(14) 藤田家文書「岡部数馬領内寺社改帳」(3)

21年度(21年7月～22年6月)・34年目の歩み

◇416 2022.8 B5 12p

日根荘成立時の鶴原村

井田 寿邦

現代語訳「食家と佐野と海」(24)

二山 和美

史料紹介 泉州の寺社(15) 藤田家文書「岡部数馬領内寺社改帳」(4)

◆大阪歴史懇談会会報

〒536-0008大阪市城東区関目2-3-2 アンティークショップ一兵内 TEL06-6931-
1081 年5000円 1984年創刊 <http://osakarekikon.cocolog-nifty.com>

◇451 (39-5) 2022.5 B5 8p

巻頭言 神のおやしらのこと(71) 住吉大社(3) 和久 敦也

令和4年4月例会報告(第413回) 『田邊籠城衆四百十年後の戦友会』

大阪歴史懇談会理事 寺井正文氏

(レポート・中澤)

会員の書評 『昭和恋々 あのころ、こんな暮らしがあった』

(山本夏彦・久世光彦(共著) 清流出版)

評者・井川光正

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『新田義貞』(人

物叢書) 峰岸純夫、『新田義貞』—関東を落とすことは子細なし

(ミネルヴァ日本評伝選) 山本隆志、『新田三兄弟と南朝』—義頭・

義興・義宗の戦い 久保田順一、『新田一族の中世』—「武家の棟梁」

への道(歴史文化ライブラリー)

◇452 (39-6) 2022.6 B5 8p

巻頭言 神のおやしらのこと(72) 住吉大社(4)

和久 敦也

令和4年5月例会報告(第414回) 『写真家・藤本巧の歩んだ道』

—私の韓国50年誌— 写真家 藤本巧氏

(報告・井川)

令和4年 春の見学会

『琵琶湖疎水』を歩く』案内人(見学部会) 和久敦也氏

(報告・和久)

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『元号と日本人』

プレジデント書籍編集部(著) 宮瀧交二(監修)、『元号』—年号から

読み解く日本史(文春新書) 所功・久禮旦雄・吉野健一(著)、『「元

号」と戦後日本』 鈴木洋仁

◆近畿文化 近畿文化会

〒543-0001大阪市天王寺区上本町6-5-13 上本町YUFURA 7階

TEL06-6775-3686 年2200円 <https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/bunka/>

◇872 2022.7 A4 8p 300円

高野山奥之院を歩く

狭川 真一

近畿文化会との思い出

猪熊 兼勝

◇873 2022.8 A4 10p 300円

飛鳥池跡苑池からみる古代庭園の継承と変革

相原 嘉之

持統天皇の願いを映す飛鳥の王墓群

今尾 文昭

大和文華館 展覧会案内「一笑一顰—日本美術に描かれた顔」

◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒573-0084枚方市香里ヶ丘6-4-9 上遠野浩一方 年4000円 1995年創刊

<http://kodaishinoumi.sakura.ne.jp/kodaishi/>

◇107 2022.6 A5 64p 1500円

巻頭言 論文を読むこと

上遠野浩一

皇帝・天皇の原義と故実

三浦 啓伯

“日本書紀”とはなにかー『続日本紀』の撰上記事の再検討

荊木 美行

アンデス通信(60) グローバリゼーション・モデルとワリ現象

市木 尚利

へそ曲がり「全然やばいって感じのイメージ」考

山下 輝幸

新刊紹介

平林章仁著『雄略天皇の古代史』(志学社選書)

上遠野浩一

水谷千秋著『女たちの壬申の乱』(文春新書)

上遠野浩一

一光三尊像のルーツについての一考察(7) まとめ

山下 輝幸

◆左海民俗 堺民俗会

〒593-8302堺市西区北条町2丁10-11 佐原浩二方 TEL072-275-8588 年3000円

<https://ameblo.jp/skmz2014>

◇169 2022.6 B5 8p

堺の町のなりたち(3) 金岡

川村 淳二

1929年世界恐慌・昭和恐慌における地域差(3)

森井 淳吉

惜 別

川村さんとの思い出

佐原 浩二

川村さんの急逝を悼む

森井 淳吉

お別れの辞

下谷 佐吉

川村さまの思い出

岸田 明代

川村淳二先生との思い出

濱田美代子

3月例会報告

国宝の古墳壁画「キトラ古墳や高松塚古墳」を巡る

下谷 佐吉

4月例会報告

旧福知山線廃線跡の散策 担当：一色若夫(下谷佐吉が担当)

◆除痘館記念資料室だより 洪庵記念会除痘館記念資料室

〒541-0042大阪市中央区今橋3-2-17 緒方ビル TEL06-6231-3257 2010年創刊

◇15 2021.6 A4 8p

緒方八重さんと億川家一八重さん生誕200年に寄せて

億川 エミ

緒方八重さんと大坂の除痘館一生誕200年記念

古西 義麿

緒方洪庵の華族の諸相

川上 潤

熊谷直恭(蓮心)の『痘瘡かるくする傳』と幕末京都の牛痘歌集

浅井 允晶

緒方家と億川家一洪庵夫人・八重と億川家の人々

緒方 高志

◆城だより 日本古城友の会

〒577-0044大阪市西成区玉出中2-11-28 平川大輔方 TEL06-6652-4511

<http://www.kojyo-tomonokai.com>

◇643 2022.7 B5 26p

摂津守口宿と文禄堤(京街道)探訪と会員研究発表会(8月・第706回例会) 今回の見どころ

6月・第704回例会報告

摂津 滝山城 担当幹事: 岸本征剛・藤岡秀典 報告・藤岡秀典
多聞山城と松永久秀 二瓶 久美
和歌山県の龍松山城を訪ねて 坂本 昇
別冊(B4 6頁) 第705回例会 大和 柳生城・柳生陣屋を訪ねる
担当幹事: 森田又一・中西徹

◇644 2022.8 B5 26p

播磨赤穂城を訪ねる(9月・第707回例会) 今回の見どころ

7月・第705回例会報告

大和柳生城・陣屋 担当幹事: 中西徹・森田又一 報告・中西 徹
茨城県 笠間城を訪ねる 坂本 昇
兵庫県佐用町利神城跡を訪ねて 宮島 茂
別冊(B4 3頁) 第706回例会 大和 河内守口宿と文禄堤(京街道)
担当幹事: 森田又一・平川大輔
別冊 第706回例会・研究発表会 丹後園部城 陣屋と城郭違い線引きは? 栢木隆/伊豆半島北西部の近世石丁場と採石技術 矢野定治郎

◆つどい 豊中歴史同好会

〒560-0054豊中市桜の町4-6-27-208 小川滋方 月1000円

1988年創刊 <http://toyoreki.way-nifty.com>

◇408 2022.7 B5 18p

再論 古市・百舌鳥古墳群と王統の確執 塚口 義信
第三十四回定期総会報告

◆ヒストリア 大阪歴史学会

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科

古市晃研究室気付 1951年創刊 <http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>

◇292 2022.6 A5 89p 900円

勅使省の成立と展開—八世紀における天皇家産の管理をめぐる— 柳沢 菜々

神話研究と歴史学を結ぶ視点—三浦俊介『神話文学の展開—貴船神話

研究序説—』を題材に	榎村 寛之
わたしたちの文化財 和歌山の擬洋風医院建築 郭家住宅	御船 達雄
地域の歴史を守り伝える	
NPO法人フィールドミュージアムトーク 史遊会の概要	至田 義廣
書評 前田徹著『中世後期播磨の国人と赤松氏』	川岡 勉
2022年度大会報告要旨	
考古・部会報告	
前方後円墳設計技術の流通構造—伊勢湾西岸地域の事例	柴原聡一郎
佐紀古墳群の倭国王墓と類型墳の複製	岸本 直文
古代・部会報告 賀茂斎院制度の成立	笹田 遙子
古代・個人報告 大宰府官司機構と西海道一八・九世紀を中心に	吉岡 直人
中世・部会報告 中世後期における地方寺院の寺領と経済構造	
—摂津国勝尾寺を事例に	小野塚航一
近世・部会報告	
近世幕府海運体制の特質と諸問題—御城米輸送を対象として	糸川 風太
近世中後期に郷町運営における金融と領主財政	
—摂津国川辺郡伊丹郷町を事例に	加藤 明恵
近代・部会報告	
近代移行期における水利秩序と地方行財政—旧加賀藩領を事例に	
	濱田 恭幸
褒賞条例と地域社会における「名望」の形成	袁 甲幸
報 告	
難波宮跡整備の事業者募集	岸本 直文
高輪築堤の保存を改めて望む	岸本 直文
委員会報告 第7回・第8回	古市 晃

◆家系研究 家系研究協議会

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921

年5000円 1981年創刊 <http://www.geocities.jp/kakenkyou/>

◇73 2022.6 B5 147p 1800円

伊予の越智氏・河野氏の祖系と同族(上)	宝賀 寿男
古書に見える珍姓・難読姓(5)	安原 繁利
駿河今川一族庶流についての考察	真野 信治
三春町・影山家の先祖を辿る	
—戦国時代末の先祖でストップ 膠着状態打開への願い	野口 裕子

古代氏族との接点について―山祇・海神・天孫・渡来系氏族の視点	斎藤 秀幸
楠本氏末裔いろいろ(1)	岡田 有史
平山了清の大隅国下向について	平山 旦清
ここでちょっとコーヒーブレイク 梶原景時の子孫について	馬原 浩一
丸山浩一名誉会長追悼特集	
丸山浩一名誉会長を偲ぶ	宝賀 寿男
丸山会長のこと	安原 繁俊
名誉会長との思ひ出すまに	二ノ丸吉武
北関東・南東北の菊池・菊地氏(寸考)	斎藤 秀幸
丸山名誉会長との思い出	馬原 浩一
表紙家紋「北条鱗」	馬原 浩一

◆家系研究協議会会報

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921
年5000円 2002年創刊 <http://kakenkyoug2.xrea.com>

◇80 2022.6 B5 8p

ウクライナの現状に思う 馬原 浩一

家系研究小ネタ特集 第6回 比企一族の血が… (馬原)

家研協たより 会員情報、会員の出版情報 高澤等さん『家紋大事典』

が出版されました、家系研究協議会次回以降の例会などについて
書評 『人類の起源 古代DNAが語るホモ・サピエンスの「大いな
る旅」』 篠田謙一著 中公新書 中央公論新社刊 2022年 (馬原)

兵庫県

◆源右衛門蔵 宝塚の古文書を読む会

〒665-0836宝塚市清荒神1-2-18 宝塚市立中央図書館市史資料室気付
TEL0797-85-0648 1999年創刊

◇24 2022.6 A5 126p

解説文

売布社木の鳥居大破ニ付取替願(弘化四年) [資料番号目録6-88]

覚 摂州川辺郡米谷村御用／乍恐口上(売布社境内木之鳥居取払
石之鳥居新建見分願)／乍恐口上(売布社境内石之鳥居新建願御
見分)

売布社石鳥居再建上棟式飾付次第(弘化五年)

[資料番号 目録集26-10]

御触書訴状控(文化十五年(その一)) [資料番号B-48]

乍恐以書附御願奉申上候 (米谷村七左衛門借家人死後相続人願)

／乍恐書附ヲ以御願申上奉候 (庄右衛門病死死後相続)／人別送

り一札之事 (吉兵衛妹のふ)／当村立会領字移多川東堤借地願

『おくのほそ道』から…～漢籍のことなど

はらだおさむ

満願寺と仁王様

谷川やす子

鉄斎の書画に出会って

杉本 和子

たからづかデジタルミュージアム

令和四年(二〇二二年)二月一日オープン

川田和香子

たからづかデジタルミュージアムー西谷村役場布達文を読む

森本 敏一

京都北野天満宮へ

櫛田 育子

「高売布神社の社号標石」を読み終えて

山本 久美

天璋院篤姫の書簡に魅せられて

西脇こよの

コロナ禍を楽しく過ごすために

上川 弘明

宝塚で小散歩

楊井ツヤ子

メタセコイヤ

藤本 清志

ほんのひととき一丹波の山城に行ってみた

山下須美雄

郷土史会と先生の思い出

瀬 將英駿

「宝塚の古文書を読む会」に入会して

八尾奈緒美

古文書について

近藤 節子

井垣の名前の由来

井垣 六郎

コロナ、古文書、ハイデガー そして人工知能(AI)

大村 剛

入会の挨拶

今里 健治

寄稿文「宝塚の古文書を読む会」入会に際して

岡本 育郎

◆西宮文化協会会報

〒662-0974西宮市社家町1-17 西宮神社内 TEL0798-33-0321

<http://nishinomiya-ebisu.com/bunkyo/>

◇652 2022.7 B5 8p

八月行事 第二回西宮・伝統芸能の夕べ 文楽「釣女」鑑賞会

浮世絵版画ー西宮の風景あれこれ(7) 西宮市立西宮高校 南門前

6月1日分散登校初日の図(完成2020.7.27)

布広 良雄

えびすかき道中記 佐賀県 鎮西西宮社編

武地 秀実

不定期連載エッセイ〈若造の頭ン中〉「何箱ありますか」

小野 篁

五月行事 文化講演会「西宮」保存箱 思い出の集い五「西宮とス

ポーツあれこれ」を開催しました

会員活動報告 『豊川柳』コンクールで全国入選(銅賞) 中村 宏
 ◇653 2022.8 B5 8p
 九月行事 観月祭、月見の宴／文化講演会「松谷武判のあゆみ」美術
 作家 松谷武判氏
 六月行事 ワークショップ「宝船の豆本を作ってみよう」
 講師：藤沢和幸先生 江寄健一郎
 浮世絵版画―西宮の風景あれこれ(8) 西宮市常盤町
 一本松地蔵尊 地蔵盆まつり(完成2019.10.25) 布広 良雄
 大石可久也―西宮ゆかりの画家 森田 正樹
 会員活動報告
 C O V A X & ポストコロナの医療支援 中村宏／山本純子

◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中印刷出版内 TEL078-871-0551
 年3000円 1962年創刊
 ◇343 (61-4) 2022.8 A5 53p 600円
 《特集 播磨国風土記研究の新視角》
 『播磨国風土記』の伊和大神と大神 垣内 章
 十四丘物語の考察 菅野 稔博
 地域に即した播磨風土記研究 岸本 道昭
 託賀郡「有味」の謎を解く 孝橋 明子
 『兵庫県小字名集Ⅵ 神戸・阪神間編』刊行と事業完結 大国 正美
 追悼 二宮一郎さん 渋谷 武弘
 新聞地域版を読む 神戸新聞の文化財記事(2014年12月7日～30日)
 大国正美／有吉康徳

奈良県

◆大美和 大神神社

〒633-8538桜井市三輪 TEL0744-42-6633 <http://www.oomiwa.or.jp>
 ◇143 2022.7 B5 68p
 暑中ご挨拶 鈴木 寛治
 泊瀬川と三輪川 村田右富夫
 三輪山西麓の古墳群について 丹羽 恵二
 古代奈良盆地の道路網 近江 俊秀
 婚姻の不成立―雄略天皇と美和河の童女 藤原 享和

◆水平社博物館研究紀要

〒639-2244御所市柏原235-2 TEL0745-62-5588 1999年創刊

<http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/>

◇24 2022.3 A5 104p 1000円

水平社博物館『研究紀要』第24号発刊にあたって

川口 正志

史料紹介「差別撤廃・水平運動ニ関スル研究座談会速記録」

解題

奥本 武裕

史料紹介「差別撤廃・水平運動ニ関スル研究座談会速記録」

堀出 幸子

関連史料1 一九三一年(昭和六)五月十四日付『奈良新聞』二面

関連史料2 差別撤廃・水平運動ニ関スル研究座談会一資料

(水平社博物館所蔵阪本清一郎資料)

関連史料3 差別撤廃・水平運動ニ関スル研究座談会一資料

和歌山県

◆紀南・地名と風土研究会会報

〒646-0004田辺市上万呂549-3 浅里耕一郎方 TEL0739-25-3794

年2000円 1985年創刊

◇62 2022.8 B5 28p

特集 古道と地名

地名に残された熊野詣

浅里耕一郎

「三里が峰越え」とそれに関する地名

玉置 芳男

熊野古道・潮見峠の話

吹揚 克之

再考・三栖の地名について

宇井 正

古道の語り部を体験して 悩ましい熊野神社の質問

宇井 正

世界遺産 熊野川(川の古道)―歴史と民俗・地名について

田中 弘倫

◆熊野 紀南文化財研究会

〒646-0051田辺市稲成町392 高山寺 曾我部大剛方 TEL0739-22-0274

年3000円 1969年創刊

◇162 2022.5 A5 62p

五方衆についての基礎的検討

一境目地域における国人領主層の動向について

佐藤 純一

口熊野における山村の免定

廣本 満

吉備由利と熊野の神社の変遷史について

一中世の熊野信仰の正体に関する仮説(6)

蓑 虫

郷土関係新刊紹介 職人集団の歴史地理―出稼ぎ鍛冶の地域的展開／
熊野謎解きめぐり／濱田文三郎日記／江戸時代の熊野街道と旅人たち

◆熊野学研究 国際熊野学会

〒647-0011新宮市下本町2-2-1 新宮市教育委員会文化振興課 TEL0735-23-3368

〒425-0035静岡県焼津市東小川3-5-33 八木勝行方 TEL090-9124-9262

年3000円 2010年創刊

◇10 2022.7 A5 85p

小特集 熊野新宮の聖地文化

特集にあたって

世界遺産としての文化的景観と熊野新宮

西村 幸夫

霊山・神倉山と蓬莱山の縁起伝承景観

川崎 剛史

熊野川河口域の聖地景観

山本 殖生

齋藤茂吉の巡礼―高野山から粉河・熊野へ

半田 美永

楊貴妃と熊野権現垂迹縁起と飛行三鈷

―中世の熊野信仰の正体に関する仮説3

村川 実

熊野地方における文化遺産実践を対象としたフィールドワークの調査

報告

山本 恭正

◆熊歴情報 熊野歴史研究会

〒647-0011新宮市下本町2-2-1 新宮市教育委員会文化振興課 山本殖生

TEL0735-23-3368 年3000円

◇226 2022.8 B5 2p

総会報告 6月5日(日)／総会研修講演会 白石博則先生「奥熊野の城跡―その魅力と歴史を語る」／堀内新宮城跡と越後城跡を歩く／秋の熊野歴史文化ツアー／『和歌山城郭研究』21号／『大坂城と大坂・摂河泉地域の歴史』北川央先生／事務局より

島 根 県

◆大社の史話 大社史話会

〒699-0751出雲市大社町杵築西2695-1 稲根克也方 TEL0853-53-4966

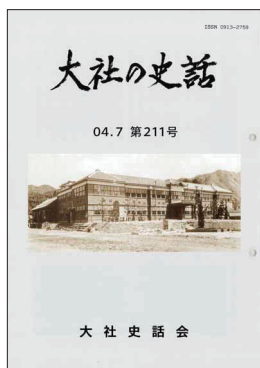
年2500円 1974年創刊

◇211 2022.7 B5 38p

銃後と少女たちの青春～島根県立大社高等女学校座談

岩成 俊策

出雲大社造営文書を読む(2)	岡 宏三
近世の石見と杵築大社(上)	斎藤 一
大社本殿真菰注連縄考	田中 文夫
誌上「古文書講座」基礎編(1)	出雲市文化課
ギャラリー展「いつまでも戦後でありたい2022～旧大社基地の調査速報」	出雲弥生の森博物館(三原一将)
開館15周年記念特別展「ハニワの世界へようこそ」	島根県立古代出雲歴史博物館(増田浩太)
地域の話題紹介「右近の橘」、日御碕に里帰りする!～高橋家保存右	
近の橘の樹植栽及び高橋昌造博士の顕彰碑建立報告祭	今川 和男
随想 漱石と祖父のロンドン留学事情	岡垣 克則
随想 ふるさとの夢に包まれ出雲大社へ	土方 幸子
書籍出版情報 山崎裕二著『出雲阿国と阿国かぶき』の出版	編集部
令和4(2022)年1月～3月 出雲市大社町年表	編集部
表紙写真 島根県立大社高等女学校の校舎全景(写真は語る『大社の百年』より)	



*「大東亜戦争」の開戦から80年が過ぎ、この時代の体験を伝えられる人が少なくなっている。

岩成俊策「銃後と少女たちの青春～島根県立大社高等女学校座談」は、現役の高校教師である著者が、銃後の国民たちの生活を学び、戦争の時代を自らの生活と結びつけて考えるには、教科書で知識を得るのではなく、皮膚感覚として捉え直すことが必要であるとして、この時代を若者として過ごした7名の元高等女学校生徒と座談した記録である。

生徒らは昭和2年から8年生まれである。学校の授業内容は、国語は兵隊への慰問文、音楽は軍歌、体育は竹やりとなぎなたに手旗信号、修身は教育勅語暗唱、

裁縫は軍服の穴がかり、農業はさつまいも作りでかついだ天秤の下肥が背中にかかったことなど、教育が軍事一色に染まっていたことが分かる。また、勤労奉仕では大工さんに教わりながら、主翼班や胴体班などに分かれて木製の偽飛行機を作り、松の下に並べてさも飛行機が沢山あるように見せかけたこともあった。慣れない手つきで鋤を握り、辛い戦時生活を送ったにもかかわらず、「私たちは直接爆撃されたわけじゃないから……」と、ぼつりともらす一人の生徒の言葉が印象的である。

戦後の恋愛模様に話に移ると場が急に華やいだという。「戦中の過酷な環境を生きた人々も、若者として喜怒哀楽を重ねてきたのだ。そんな当たり前のことに気づき、私は不思議な安心感を得た。同時に、彼女らの青春を抑圧し続けた戦争の影を捉えることができた気がした」と述べる。

こうした日常の証言をもっと集め、今の若者の教育に活かして欲しいと思う。

なお、戦争に関しては他に、出雲弥生の森博物館のギャラリー展を紹介する、三原一将「いつまでも戦後でありたい2022～旧大社基地の調査速報」が収録されている。この調査は、今後の平和教育の資料に活用する目的で行われたものであるという。展示タイトルから、戦争の記憶を風化させない、そして、現代、未来を戦争の時代にしないとの強い思いを感じる。

岡山県

◆宇喜多家史談会会報

〒700-0826岡山市北区磨屋町6-28 光珍寺内 TEL086-222-2028 年2000円
2002年創刊

◇83 2022.7 A4 10p

亀山城跡周辺の戦国時代の逸文

中西 厚

悲運の武将・宇喜多秀家(6) 敗軍の将となりての逃避行

内藤 勝輔

物語直家記伝 西大寺辺の城 第53回 転変(9)

山重十五郎

会員サロン 宇喜多氏関連遺跡の写真展(18) 八幡山

矢部 隆正

◆岡山藩研究 岡山藩研究会

〒169-8051東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部 大橋研究室気付
<http://okayamahanwaseda.seesaa.net/?1465280813/>

◇91 2022.1 B5 8p

〈第50回全体会の記録〉 2022.2.26

報告要旨

家斉期における徳川御三卿の役割―相馬大作事件を素材として 根本みなみ

参加記

根本みなみ報告「鞍鐙拝領と大名の『御威光』—弘化三年萩毛利家

を事例に—」参加記

深谷 克己

根本みなみ氏の報告を聞いて

山本 英貴

◆きび野 岡山県郷土文化財団

〒700-0822岡山市北区表町1-7-15 702号 TEL086-233-2505

<http://www.o-bunka.or.jp>

◇166 2022.6 A5 14p

「自然災害伝承碑」—西日本豪雨から四年後に思うこと

松多 信尚

おりがみと私

片岡 元子

岡山の人物 近松秋江

綾目 広治

岡山の自然 満奇洞

白石 祐司

岡山の文化財 奥津荘本館

日下 隆春

わが町・わが村の自慢 岡山大学医学部医学資料室（真庭市北区）

ふるさとの思い出 「蘇った木造校舎—旧吹屋小学校」—明治から現在

へ語り継がれる懐かしい記憶（高梁市成羽町） 高梁市教育委員会社会教育課
歴史的建造物とヘリテージマネージャーの役割 野林 久規

広島県

◆芸備地方史研究 芸備地方史研究会

〒739-8522東広島市鏡山1-2-3 広島大学大学院文学研究科日本史学研究室内

TEL082-424-6643 年3000円 1953年創刊 <https://geishi.hiroshima-u.ac.jp>

◇320・321 2022.7 A5 74p 1200円

特集 広島サッカースタジアム建設予定地発見の近代遺構を考える

—歴史的価値と保存・活用の検討

特集「広島サッカースタジアム建設予定地発見の近代遺構を考える

—歴史的価値と保存・活用の検討」にあたって

サッカースタジアム建設予定地発見の近代遺構と保存・活用について

藤野 次史

近現代史研究から見た原爆遺跡、戦争遺跡

石田 雅春

文化財保護行政からみた近代遺跡

—とくに軍事関連遺跡の調査と評価

妹尾 周三

戦争記憶と継承—近代日本の戦争遺跡研究

菊池 実

討論会

藤野次史／石田雅春／妹尾周三／菊池実／司会・鈴木康之

書評 岩橋清美・吉岡孝編『幕末期の八王子千人同心と長州征討』 鴨頭 俊宏
動向 広島県の地方史研究 雑誌目録／研究活動

◆備陽史探訪 備陽史探訪の会

〒720-0824福山市多治米町5-19-8 Tel084-953-6157 <http://bingo-history.net>

◇224 2022.7 A4 20p

備後国衆列伝(12) 芦田郡の福田氏

田口 義之

中世石造物の調査報告

文責・篠原芳秀

訃報 会員 井上清さん

福山城惣構と城下を取り巻く土塁Ⅰ—正保城絵図を基として

瀬良 泰三

近世福山の歴史講座 40回 第五部 水野時代総集編—その一

高木 康彦

向島の岡島城跡について

中世史部会

田口義之の備後山城50選(50) 謎を秘めた巨大山城 木之上城

史料紹介 井上家文書(3)「文政六年癸未九月新溝再興御願一件」1

文責・小林悠一

江戸時代の疫病対策について

岡田宏一郎

『日本書紀』の吉備国 十、吉備国の終焉

若林 啓文

備陽史探訪の会NEWS

◆みよし地方史 三次地方史研究会

〒729-4304三次市三良坂町三良坂2747 中畑和彦方 Tel0824-44-2753

1987年創刊

◇118 2022.8 A4 20p

鎌倉末期から南北朝初期の山内首藤氏—相模国から備後国へ

谷本 寛

狂歌で綴る旅行記『都の道の記』(天保十一年十一月)(上)

中畑 和彦

河野駒一氏と『稲生物怪録』

杉本 好伸

碑は語る(2) 契約碑(三次市廻神町)

絵図で見る昭和初期及び昭和二十年代の志和地駅前の様子から

立畑 春夫

三次盆地の前方後円墳(24)

天神第二号・第七号古墳—調査報告(2021年度12月調査)

加藤 光臣

三次地方史研究会2021(令和3)年度 事業報告

◆わが町三原 みはら歴史と観光の会

〒723-0051三原市宮浦6-9-32 鈴木方 年3600円 FAX0848-63-9932

◇376 2022.7 B5 12p

今月の各地 三原酒 埋もれていた書状

上田 茂

令和4年度総会等報告／令和4年6月05日の記録アルバム	事務局
昭和22年の天皇行幸(完結編)	西村 雅幸
日本の牛と馬、交通の歴史(完結編) 第4章 騎行と車行の歴史	三好 邦範
三原市のカワウ対策 第2報(後期)(6)―平成30年～令和2年の取組	行長 啓三
◇377 2022.8 B5 12p	
今月の各地 特攻に想う	大谷 和弘
雙照院を訪ねて	津島 敏子
昭和22年の天皇行幸 後日談	西村 雅幸
三原市のカワウ対策 第2報(後期)(7)―平成30年～令和2年の取組	行長 啓三

徳 島 県

◆史窓 徳島地方史研究会

〒771-0220板野郡松茂町広島四番越11-1

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館内 TEL088-699-5995

◇52 2022.3 A5 120p 1363円

仁字谷産物趣法の歴史的前提	町田 哲
戦国期阿波守護細川家関係者「氏之」の素性について	森脇 崇文
「惣寺院」と所在地と「渭津」	石尾 和仁
史料紹介 永仁元年「高越荘八幡宮御供頭置文写」	福家 清司
書評特集「徳島地方史研究最前線」	

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編『鳥居龍蔵の学問と世界』

端野 晋平

小酒井大悟・渡辺尚志編『近世村の生活史 阿波・淡路の村と人』菅野 将史

徳島地方史研究会編『阿波・歴史と民衆Ⅴ 地域社会と権力・生活文化』

山澤 学

新刊紹介 池田町古文書研究会編『横山家所蔵 祖谷山旧記』

石尾 和仁

史窓のひろば

武知忠義さんの思い出

立石 恵嗣

徳島県立博物館常設展示リニューアルによせて

林 春名

徳島地方史研究文献目録(2020年10月～2021年9月)

◆徳島県立博物館研究報告

〒770-8070徳島市八万町向寺山 徳島県文化の森総合公園 TEL088-668-3636

1991年創刊 <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

◇32 2022.3 A4 85p

鳴門市里浦町で発見された更新統とその花粉分析

中尾賢一／辻本裕也／大嶋秀明

四国におけるヘクソカズラゲンバイ *Dulinius conchatus* Distant, 1903 の

分布拡大

加藤敦史／山田量崇

徳島県海部郡海陽町 2 地点での蛾類調査—2012年の調査結果

広渡俊哉／屋宜禎央／鈴木信也／外村俊輔／小林茂樹／山田量崇

アサギマダラの移動に関する徳島県の記録(2021年)

大原賢二／山田量崇

香川県で発生したクロマダラソテツジミの記録

玉川晋二郎／黒川康嘉

ワセビエ *Echinochloa colona* (L.) Link の花序の毛について

茨木靖／浅井元朗

高知県の鮮新統足摺層産コケムシの体化石および生痕化石

三本 健二

高知県の更新統足摺層産コケムシ

三本 健二

資料紹介

徳島県小松島市前山遺跡出土埴輪

岡本 治代

「古鏡帳」の三角縁神獸鏡図について

植地 岳彦

◆徳島県立博物館ニュース

〒770-8070徳島市八万町向寺山 徳島県文化の森総合公園 TEL088-668-3636

1990年創刊 <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

◇127 2022.6 A4 8p

ネコ科動物の頭骨

井藤 大樹

Culture Club 幻の三角縁神獸鏡

植地 岳彦

令和4年度企画展「ネコ展 かわいいだけじゃないネコ」

これが海底火山“福德岡ノ場”の軽石だ！

茨木 靖

館蔵品紹介 足踏脱穀器の改造から生まれた道具 茶さばき機

磯本 宏紀

レファレンスQ&A 日本地質学会が、徳島県の岩石として「青色片岩」という石を選定したそうですが、これって「阿波の青石」と同じものですか？

中尾 賢一

愛媛県

◆伊予史談 伊予史談会

〒790-0007松山市堀之内 愛媛県立図書館内 1915年創刊

◇406 2022.7 A5 47p 750円

一七世紀における宇和島藩の漁政について

一網銭廃止前後の浦々と寛永の漁業改革の位置付け

山下堅太郎

六番松山監視哨の記録

多田 仁

歴史余話	虚子翁東野別墅案内記	藤原 茂
書評	山内譲著『海の領主忽那氏の中世』	山内 治朋
新刊紹介	鈴木理恵編『家と子どもの社会史 日本における後継者育成の研究』、梶原克彦編『『海南新聞』松山俘虜収容所新聞記事集成』(二冊)、鬼北の文化財利活用戦略会議編『清良記と大森城跡—三間の中世世界を考える』	
郷土その日その日	自令和4年1月至令和4年4月	編集部(柚山俊夫)
例会記事	第1272回 総会、伊予の屏風図を歩く 井上正夫氏／第1273回 愛媛県立美術館設立前後の動向について 杉山はるか氏、藤原純友と越智好方—その「出会い」と「別れ」 岡田利文氏	

福岡県

◆季刊邪馬台国 梓書院

〒812-0044福岡市博多区千代3-2-1 TEL092-643-7075 年5400円 1979年創刊

◇142 2022.8 A5 224p 1350円

巻頭言 弓馬の道の源流へ

編集部

〈総力特集 馬の文化史—馬から読み解く古代〉

重装騎馬戦術と仏像の東漸

—草原を越え、海を渡った騎馬文化と仏教

桃崎 祐輔

船原古墳と馬具

西 幸子

古代官道と馬

石井 幸孝

日本の馬文化を巡って 古代から明治時代まで

—「人馬一体の日本史」のために

村井 文彦

騎馬文化の渡来と神功皇后伝承の怪

—古墳の築造年代推定図が、古代の謎を解く

安本 美典

卑弥呼の遣使は景初二年か、三年か—その研究史と考察

笛木 亮三

末盧国・伊都国間の道程をめぐる諸説の検討

—鹿津平野の地形図を中心として

山下 壽文

新連載 倭国(邪馬台国)の神々(1)

プロローグ 記紀から削られた豊国の神々

福永 晋三

オトナ女子のコラム 晴れ、ときどき、古代史

藤江かおり

筑紫君磐井をたずねて(3)

豊前の鬼会は磐井の御霊を封じる神事だったのか

綾杉 るな

私の町の博物館(5)

馬との交流をたどる 馬の博物館

村井 文彦

[馬]とともに発展した地域の歴史を後世に伝える
 馬の文化資料館「称徳館」 佐藤 康則
 自著を語る
 『記紀神話は日本の古代史を物語る』—理系学者が読み解く記紀神話 宮崎 照雄
 『「魏志倭人伝」の正しい解釈で邪馬台国論争遂に決着』 兒玉 眞
 神社仏閣、縁起めぐり(9) 乗馬発祥の地 賀茂別雷神社(上賀茂神社)
 編集部

◆九州史学 九州史学研究会

〒819-0395福岡市西区元岡744 イースト一号館 九州大学文学部日本史学研究室内 TEL092-802-5098 1956年創刊

https://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~his_jap/kyushusigaku/

◇191 2022.6 B5 73p

承和十一年「卜筮を信ずべき朝議」の成立と政治課題 弘胤 佑
 中世禅僧の国師号一下賜条件としての「天子の師」の内実に注目して 日種 真子

書 評

鹿毛敏夫著『大友義鎮 国君、以道愛人、施仁発政』 長谷川博史
 岡寺良著『戦国期北部九州の城郭構造』 佐藤 凌成

2021年度九州史学研究会大会シンポジウム・研究発表要旨
シンポジウム

日本医学の近代化、その展開と国際性

一公衆衛生・国際協力・医学教育 趣旨説明 赤司 友徳

一九一八・一九二〇年「流行性感冒」の経験が鶴見三三の予防医

学をめぐる国際協力構想に与えた影響 ヨリンデ・ウェルス

明治期長崎における衛生行政の展開

一明治十八・十九年のコレラ流行を中心に 藤本健太郎

研究発表

筑前・筑後両国における高橋紹運の軍事編成と権限 村山 縁

十六世紀後期における対馬の外交僧天荊について 顧 明源

九州出兵毛利氏の交通政策 中原 寛貴

枢密院と条約改正一日英通商航海条約批准までの道のり 田中 佑

領有最初期の台湾統治一住民の処遇をめぐる議論を中心に 土井 太一

福岡市における戦時生活と隣組 河村 則香

彙報 二〇二一年度大会・総会の報告 文責・伊藤

◆市史研究ふくおか 福岡市博物館市史編さん室

〒814-0001福岡市早良区百道浜3-1-1 TEL092-845-5245

2006年創刊 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/shishi/>

◇17 2022.3 A4 152p

天目山幻住庵所蔵「安山規」の紹介と検討

野下 俊樹

資料紹介 福岡市博物館蔵「庄野家文書」

―黒田長政発給文書を中心に

福田 千鶴

福岡城の城門規定

伊津見孝明

藩医の世界―田原家九代養柏を素材にして―江戸編

上園 慶子

虫と住宅街

大野 金繁

掘立柱建物の編年整理―福岡市域を中心に

朝岡 俊也

福岡市西区飯盛谷B遺跡第1次調査概要報告

―古墳時代初頭から前期の住居跡と墳墓群

米倉 秀紀

表紙 写真「昔西中島橋ト枳形門」(福岡市博物館所蔵)

◆太宰府市公文書館報

〒818-0110太宰府市御笠5-3-1 TEL092-921-2322 2015年創刊

<https://www.city.dazaifu.lg.jp/site/dazaifushi-kobunshokan/>

◇令和3年度 2022.5 A4 55p

◆太宰府市公文書館紀要 年報太宰府学

〒818-0110太宰府市御笠5-3-1 TEL092-921-2322 2007年創刊

<https://www.city.dazaifu.lg.jp/site/dazaifushi-kobunshokan/>

◇16 2022.3 A4 82p

令和最初の書庫改革報告

高原寿子／百田繁俊

宮ノ本遺跡木炭木棺墓の想定復元

―鉄釘に残存する木材の解剖学的形質による分類

小林 啓

宝満山大巡行ルート(2)―法城窟、福城窟、益影井、風穴について

山村 信榮

資料目録 旧社会教育課永年文書細目録(3)

戦国期筑前国宝満宮の起請文

木村 純也

吉嗣梅仙の作品と生涯

井形 栄子

佐賀県

◆末盧国 松浦史談会

〒847-0823唐津市旭が丘6-5 TEL0955-73-3549 年2000円 1962年創刊

◇230 2022.6 B5 24p

「唐津の近世文書教室」 史料紹介 『峯家文書』No255

濱口 尚美

史料で読み解く 「松原寄り」の実象Ⅱ

山田 洋

寺沢家・黒田家家臣澤木家系図

澤木 寛子

澤木家系図解説

寺沢 光世

国人領主としての肥前鶴田家終焉の経緯並びに 終焉に伴い筑前博多

方面へ移住した一部鶴田氏についての考察

山口 浩

唐津・発掘・発見の話(18) 佐藤の「ドルメン」に関する学会発表と

『五千年史』について

徳富 則久

考古学における地方史研究の成果

五、時代の証(五) 火山噴出物5

田島 龍太

宮 崎 県

◆石の証言 「八紘一宇」の塔を考える会

〒880-0026宮崎市波島2-30-2 佐藤文則方 年2000円 1995年創刊

<https://hakkouitiunotou.jimdo.com>

◇108 2022.7 A4 12p

石の証言 蘇州日本居留民団

情勢 安倍晋三元首相射殺、参議院選挙、沖縄県本土復帰50年、ウク

ライン情勢、フィンランド・スウェーデンNATO加盟申請

2022年度総会の報告

沖縄戦と「八紘一宇」の塔(1)

野崎 眞公

「日高重孝(ひだかしげたか)」のこと

土岐 宗春

核兵器禁止条約 (TPNW=Treaty on Prohibition of Nuclear Weapons)

ns)／核兵器禁止条約に参加する日本を

佐川 嘉正

映画「わが青春つきるとも」／早乙女勝元(さおとめ・かつもと)さん

追悼／「八紘一宇」の塔は公共的文化財(SH)

鹿 児 島 県

◆鹿児島民俗 鹿児島民俗学会

〒896-0017いちき串木野市高見町133 所崎平方 TEL0996-32-8705 年4000円

1950年創刊

◇161 2022.6 B5 116p

表紙写真解説 志布志湾に浮かぶ枇杷島訪問

志布志湾に浮かぶ枇杷島の船着場付近の海岸(令和2年11月10日)

奄美の「あかつち文化」(1) 新民謡ブーム

民俗雑記 疫病の予言獣「アマヒコ」

キツネ妖怪譚さまざま 観光として活かしている

徐福と紫式部日記

追悼 下野敏見先生

フィールドワークの鬼(下野先生を偲ぶ)

下野敏見先生の思い出

「広く、深い洞察」を信念に

種子島の樟脳焚き

鹿屋市花丘町に伝わる「すかん節」の復元と記録について

硫黄島での『八朔太鼓踊とメンドン』現地上映会の報告

新聞記事から 27度線

沖縄側から見る奄美諸島の島々と沖縄

島の民俗語彙(中編)

種子島方言の成立はいつか

鹿児島市の犬迫と西別府の太鼓踊

資料 除証文 川辺町 自安永五年至天明六年

みんぞく・かわらばん

景色は変わる

東西で違う「たぬき」の具

妖怪・一反木綿

鹿児島民俗学会例会報告

松原 武実

名越 護

名越 護

名越 護

所崎 平

松原 武実

所崎 平

森田 清美

牧島 知子

久保 慧裕

荒木 真歩

所崎 平

近藤 功行

橋口 満

松原 武実

松原 武実

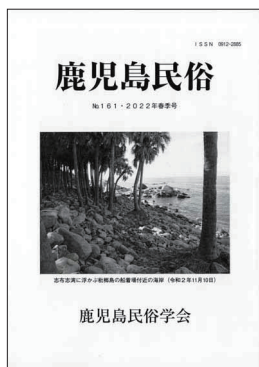
前床重治・編

所崎 平

名越 護

名越 護

所崎 平



* 本年3月10日に92歳で亡くなられた民俗学者 下野敏見氏に3名の方が追悼文を寄せている。

同氏は1954年に大学を卒業して鹿児島県立中種子高校(現 県立種子島中央高等学校)に赴任すると、生徒会に歴史民俗研究クラブを作り、生徒たちに、「自分のジジババから、なんでもいいから昔のことや村の謂れを聞いてこい」とけしかけ、発表の場としてガリ版刷りの『種子島民俗』(1959.3)を創刊した。これが同氏の民俗学研究の出発点となった。次いで、転勤した西之表の種子島高校では、やはり同様に生徒を引率して調査活動を行い、『種子島研究』(1963.11)を創刊、そして1968年3月には、島内の教員や歴史民俗に関心のある者を糾合して『南島民俗』を発行した。その調査方法は、後には何も残らないほど徹底していて、ブルドーザーのようと呼ばれた。(松原武実「フィールドワークの鬼(下野先生を偲ぶ)」)

こうして先々で生徒や若い研究者たちを指導する傍ら、『タネガシマ風物誌 鉄砲伝来の島』(未来社、1969)をはじめ、『南日本の民俗文化誌』全12巻(南方新社、2009-2014)など50冊余の著書を残した。後に、鹿児島大学法文学部と鹿児島純心女子大学の教授となり、第1回柳田國男賞も受賞している。

以てご冥福を祈りたい。

沖 縄 県

◆宮古郷土史研究会会報

〒906-0013平良市下里1223-8 下地和宏気付 TEL0980-72-9963

年3000円 1977年創刊 <https://kyodoshiken.ti-da.net>

◇251 2022.7 B5 8p

七月定例会レジメ 「報告 平良地区の戦争遺跡」	森谷 大介
八月定例会レジメ 「琉球の献上馬と倭寇」	長瀬 幸男
「屋良建議書」 米軍基地・自衛隊配備に反対～五月定例会を終えて	下地 和宏
六月定例会報告 三集団とその創世神話	宮川 耕次
書籍紹介 『宮古先人の足跡』 宮古人材史研究会	下地 和宏
沖縄の本土復帰五〇周年記念	
宮古島市の発掘調査からみた本土復帰50年	久貝 弥嗣
ツツピスキアブの発掘調査行われる	久貝 弥嗣
郷土史研究会「発足」と「再発足」	仲宗根將二
「平和憲法」と「祖国復帰」	仲宗根將二

寄贈図書紹介

◆福島県南相馬市小高区出身 憲法学者・「日本国憲法の間接的起草者」

鈴木安蔵を知るために

鈴木安蔵を讀える会（〒979-2533 福島県相馬市坪田字八幡前21 志賀勝明方
TEL・FAX0244-26-4645）2021年12月 A4 30頁 非売品

鈴木安蔵とは／鈴木家住宅、国登録有形文化財に指定／「憲法学者 鈴木安蔵」
立正大学名誉教授 金子勝氏（南相馬市発行『おだかの歴史・特別編1・人物
編』（2006年）より転載）／「日本国憲法の間接的起草者＝鈴木安蔵」元福島大学学
長 吉原泰助氏（福島県九条の会発行・ブックレット1『福島県が生んだ平和と
人権の先駆者たち』より転載）／「鈴木安蔵の生い立ち、人間形成は」詩人・元福
島県立高校教諭 若松丈太郎氏／「鈴木安蔵を讀える会」設立のいきさつ／新聞
記事など

◆清瀬市史4 資料編 近世

清瀬市編・刊（〒204-8500 東京都清瀬市中里5-842 清瀬市企画部シティプロモ
ーション課市史編さん室 TEL042-492-5111）2022年3月 B5 727頁

市制施行50周年を記念して2020年3月から刊行が開始された新『清瀬市史』の最
新刊。徳川氏が関東に入国した天正18年(1590)から江戸幕府が解体する慶応3年
(1867)前後のまでの清瀬市域の歴史を物語る史料393点を収録する。口絵／編集
にあたって(根岸茂夫)／清瀬の近世と史料／第一章 村のすがた(第一節 描か
れた市域、第二節 村のありさま、第三節 村の記録)／第二章 村のしくみ
(第一節 村のかたち、第二節 村の負担、第三節 村の自治、第四節 村のき
まりごと)／第三章 村のなりわい(第一節 農業と水利、第二節 広がる耕地、
第三節 さまざまななりわい)／第四章 村と領主(第一節 旗本の入部と系譜、
第二節 尾張藩鷹場の村、第三節 代官の支配、第四節 中里と旗本武蔵氏)／
第五章 変わりゆく村(第一節 土地売買と金融、第二節 交通と流通、第三節
村の事件、第四節 村々の連帯、第五節 凶作と貯穀)／第六章 家のくらし
と人の一生(第一節 家と村人、第二節 婚礼と出生、第三節 相続の諸相、第
四節 葬祭と供養、第五節 普請と家をめぐる事件)／第七章 村の信仰・教
育・文化(第一節 村の寺院・神社、第二節 祭礼と講、第三節 代参の旅、第
四節 手習いと学び、第五節 俳諧の流行)／第八章 村の幕末(第一節 ペリ
ー来航と海防の影響、第二節 和宮の下向と將軍家茂の上洛、第三節 江川農兵
と戊辰戦争)／あとがき(清瀬市企画部市史編さん室)

◆麦の記憶 民俗学のまなざしから

野本寛一著 七月社（〒182-0015 東京都調布市八雲台2-24-6 TEL042-455-1385）
2021年1月 四六判 220頁 2500円＋税

多様な農耕環境の中で「裏作」に組み込まれ、米を主役にすえた日本人の食生活
を陰ながら支えてきた麦。現在では失われてしまった多岐に及ぶ栽培・加工方法、
豊かな食法など、麦にまつわる民俗を、著者長年のフィールドワークによって蘇

らせる。序章 麦に寄せて／Ⅰ 麦の栽培環境（海岸砂地畑、斜面畑と段々畑、畑地二毛作と地力保全、焼畑と麦、牧畑と麦、水田二毛作の苦渋―田代・麦代の循環、水田の湿潤度と裏作作物、麦と雪、沖縄の麦作、麦作技術伝承拾遺）／Ⅱ

麦コナシから精白まで（麦焼きから精白まで―奈良県天川村栃尾の実践から、穂落としの技術、脱粒、麦の精白）／Ⅲ 麦の食法（大麦・裸麦の食法、小麦の食法）／麦の豊穰予祝と実入りの祈願／終章 麦・拾穂抄／あとがき

◆治水神・禹王探求の10年―治水神・禹王研究会創立10周年記念誌

創立10周年記念誌世話人会編 図書出版 文理閣（〒600-8146 京都市下京区河原町西南角 TEL075-351-7553）2022年7月 B5 143頁 909円＋税

中国初発の王朝であるといわれている「夏」初代王で、黄河治水に尽力した「禹王（文命）」の日本における遺構等の調査・研究を行っている治水神・禹王研究会の創立10周年記念誌。創立10周年記念誌の発刊を祝う（植村善博）／第1章 禹王と出会う 全国禹王サミット誕生前夜（大脇良夫）、禹王研究会事始め（関口康弘）／第2章 活動のあゆみ 全国禹王研究者集会の記録（植村善博）、治水神・禹王研究会 創立経過（大脇良夫）、資料 「治水神・禹王研究会」発足と会員募集のお知らせ、治水神・禹王研究会総会・研究大会のあゆみ（第1回～第8回）（植村善博）／第3章 全国禹王サミット 歴史と記録（大脇良夫）／第4章 会員からのメッセージ 文命（禹王）の葉が残る町に生まれて（浅田京子）、治水神・禹王研究の書誌学（古賀邦雄）、残念だった広島サミットの中止 でも禹王について学ぶことができたのはよかった（池田英彦）、治水神・禹王研究会および大脇良夫さんとの出会い（原田和佳）、禹王（水仙尊王）屁の関心（塩川太郎）、治水神・禹王研究会10年史によせて（吉田美江）、禹王がくれた出会い～本会発足10周年に寄せて（水谷容子）／第5章 中国・台湾への禹王調査旅行 第1回 黄河と禹王の治水伝説を訪ねる旅（植村善博）、第2回 黄河と禹王の治水伝説を訪ねる旅（大脇良夫）、第3回 禹王治水伝説の旅 湖南・湖北・河南各省の禹王遺跡（植村善博）、2018年4月 紹興市の大禹陵典礼への招待参加と見学の記録（植村善博）、2018年

台湾の禹王（水仙尊王）巡検報告（大邑潤三・谷端郷・田中麦子・中嶋奈津子・植村敏子・植村善博）、2019年 湖南省の禹王遺跡と峒巖碑調査（植村善博）／第6章 『治水神・禹王研究会誌』のこれまで 『治水神・禹王研究会誌』のこれまで（関口康弘）、禹王遺跡の認定基準について、禹王遺跡のデータ引用のルールについて、禹王遺跡認定委員会設置について、禹王遺跡と禹王文字遺物について、治水神・禹王研究会誌投稿規定／第7章 治水神・禹王研究会資料ほか 2021年治水神・禹王研究会アンケート調査の結果とまとめ（谷端郷・大邑潤三）、まとめとお願い（植村善博）、資料 治水神・禹王研究会役員変遷一覧・任期 2013年度～2022年度、植村善博会長のもと新たな時代へ！ 2019年3月末 大脇良夫、資料 治水神・禹王研究会年表、資料 治水神・禹王研究会会則、資料 日本禹王

遺跡分布図2022、資料 日本禹王遺跡一覧

◆柳田國男『信州隨筆』を読む 伊那民研叢書7

小川直之監修 飯田柳田國男研究会編 柳田國男記念伊那民俗学研究所（〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655 飯田市美術博物館内 TEL0265-22-8118）2022年5月 A5 132頁 1000円

1990年の開設直後に刊行された「伊那民俗ブックス」（『伊那谷の民俗学を拓いた人々』Ⅰ・Ⅱ、1991・1992）をひきついで創刊された「伊那民研叢書」第7輯。飯田柳田國男研究会において2008年から2012年にかけて実施してきた柳田國男著『信州隨筆』の読み合わせの成果を中心に収録する。序章 「問いの学問」の発信—柳田國男の『信州隨筆』への思い（小川直之）／第一章 信濃柿のことなど（片桐みどり）／第二章 しだれ桜の問題（寺田一雄）／第三章 なんじゃもんじゃの樹（和泉悦子・松上清志）／第四章 御頭の木（片桐みどり）／第五章 矢立の木（伝説と習俗）（湯澤孝一・北原いずみ）／第六章 青へぼの木（折山邦彦・宮下英美）／第七章 地梨と精霊（中村健一・松上清志）／第八章 眠流し考（松上清志）／第九章 犬飼七夕譚（宮下英美）／第十章 『山郷風物誌』（片桐みどり）／第十一章 『木曾民謡集』（小林多門・松上清志）／第十二章 新野の盆踊り（小川直之）／第十三章 信州の出口入口（北原いずみ）／おわりに（小川直之）

◆芝家文書調査報告

東昇編 愛媛県松野町教育委員会（〒798-2192 愛媛県北宇和郡松野町大字松丸343 TEL0895-42-1118）2022年3月 A4 200頁

平成31年（令和元）年度から令和2年度にかけて実施した旧松丸村庄屋芝家文書（平成30年、芝裕子氏寄贈）の整理・調査報告書。俳人芝不器男（明治36年〈1903〉～昭和5年〈1930〉）の生家として知られる芝家に継承されてきた松丸・為和井村に関する文書、宇和島藩榎谷番所の文書など2034点に及ぶ文書群である。刊行にあたって（阪本浩）／1 解題・現状記録 芝家文書解題（東昇）、箱現状記録／2 研究論考 宇和島藩伊達家領の榎谷御番所（山田洋一）、宇和島藩の蠟専売制と土佐輸送事例（滝澤和湖）、「御定免下札牒」からみる松丸・為和井村の土地構造（長谷川巴南）、近世松丸・為和井村の中用・仕役と算用（東昇）、宇和島藩榎谷番所の職務と情報の蓄積・継承（東昇）／文書目録／史料翻刻

◆長崎県対馬市所在高麗版経調査報告書 京都府立大学文化遺産叢書24

横内裕人編 京都府立大学文学部歴史学科（〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL075-703-5259）2022年6月 A4 324頁

京都府立大学文学部歴史学科による地域の歴史や文化遺産について平成25年度より刊行されている研究成果報告第24集。対馬に多数残されている中国・朝鮮半島から渡来した版経について、平成25年から令和元年まで行われた3338点に及ぶ渡来系巻調査の成果として、朝鮮半島で雕造・印刷された高麗版大藏経、高麗初雕

本大般若経(琴長松寺所蔵)、高麗版再雕本大般若経(豆酰金剛院所蔵)、高麗版再雕本大蔵経(豆酰多久頭魂神社所蔵)の目録、および多久頭魂神社に伝来した和版大般若経の目録を収録する。刊行にあたって(京都府立大学文学部歴史学科)／口絵／調査概要(横内裕人)／解題 長松寺 高麗初雕本大般若経(横内裕人)、金剛院 高麗版再雕本大般若経(馬場久幸)、多久頭魂神社 高麗版再雕本大蔵経(馬場久幸)／目録 長松寺 高麗初雕本大般若経、金剛院 高麗版再雕本大般若経、多久頭魂神社 高麗版再雕本大蔵経、多久頭魂神社 和本大般若経

◆後記

私的なことで恐縮だが、筆者の郷里は長野県の小さな山村である。諏訪神社が鎮座し、『長野県民俗の会通信』290 (p.34) の太田真理「コロナ禍中の御柱祭—何を守り、何を置き換えたか」で紹介したように、御柱祭を行ってきている。今年5月に山出しがあり、10月には里曳きが予定されている。狭い谷間を上下から4本の御柱を曳く里曳きの日は、普段は静まり返っている過疎の地域が、この時ばかりと人いさいでむせ返る。我が家でも、両親が亡くなってから無人にしている生家を開け広げ、祭提灯を吊るし、家々を練り歩く奉納芸の踊り手たちを招き入れ、東京に住む家族は当然のこと、親戚、友人らを招いて賑やかに宴席を設けてきた。御柱年は大きな物入りや準備負担になることから、土地の人びとは寅年と申年の6年サイクルで生活設計をし、ひと昔前には「御柱年は嫁を取らない」と言われた。6年毎というサイクルは絶妙である。残念だが今年ばかりは例年のようにはいかず、氏子による神事中心の行事になるだろう。太田氏の論考に、いつもなら振る舞いの準備や接待で忙しい女性たちが、「初めてゆっくり御柱を見たよ」と喜んでいるとの記述があり、はっとさせられた。そうしたことも併せ、今年は太田氏が指摘したように、祭の本質を見詰め直すいい機会になりそうだ。

(飯澤)

地方史情報 157 2022年(令和4年)9月1日 発行

編集・制作 : 白鳥舎 hakucho@eris.ais.ne.jp

ウェブサイト公開: 岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103 TEL03-3326-3757

*本誌は、140号より、PDF版のみの発行です。